

# PROBLEM PARADISE

通巻 112 号

第 28 巻

2025 年 10-12 月

日本チェス・プロBLEM協会オンライン機関誌

<https://problem-paradise.com/>

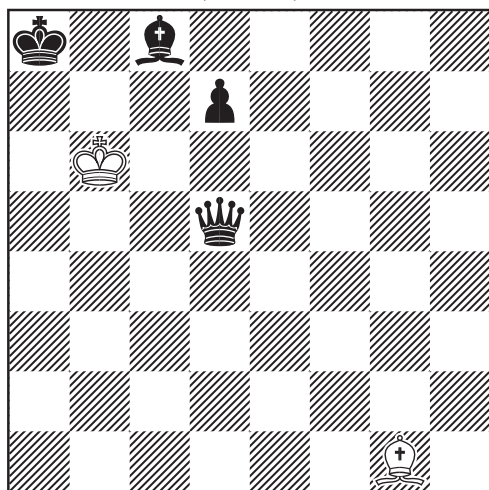
編集人：若島 正 (wakashimatadashi [at] gmail.com)

F1668

N. Shankar Ram

C+

(India)

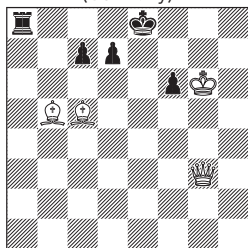


H#2 3 Sols

(2+4)

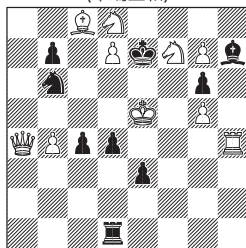
All In Chess

**D778** Thomas Woschnik  
C+ (Germany)



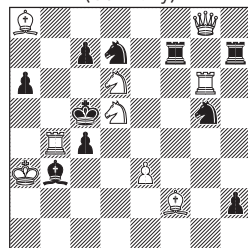
#2 (4+5)

**D779** Masakazu Nakajima  
C+ (中嶋正和)



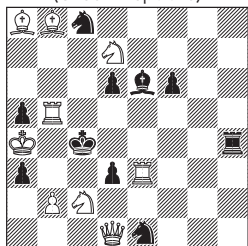
#2 (10+9)

**D780** Rainer Paslack  
C+ (Germany)



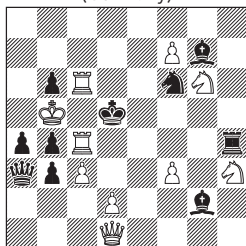
#2v (9+10)

**D781** Miroslav Svitek  
C+ (Czech Republic)



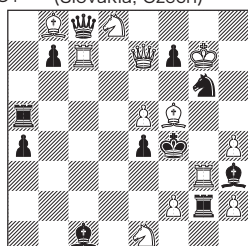
#2v (9+10)

**D782** Gerhard Maleika  
C+ (Germany)



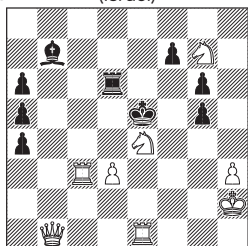
#2 (10+10)

**D783** Zoltán Labai  
Miroslav Svitek  
C+ (Slovakia, Czech)



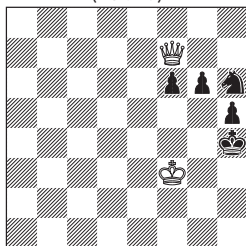
#2\* (12+11)

**D784** Leonid Lyubashevsky  
Leonid Makaronez  
C+ (Israel)



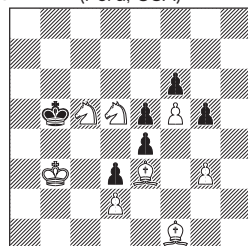
#3 (8+9)

**D785** Jan Lipka  
C+ (Poland)



#4 (2+5)

**D786** Antonio Tarnawiecki  
Steven Dowd  
C+ (Peru, USA)



#5 (8+6)

## ダイレクトメイト

### 担当者

若島 正

ジャッジ 2024-2025

Paz Einat (Israel)

今回は9局の出題です。このところ、水準の高い #2 が増えて、喜んでいます。#3 および more-movers にもいい作品が投稿されることを期待しています。

**D779** でこのコラムに初登場の中嶋正和さんには、第 113 号より本欄の担当を引き継いでいただきます。ぜひ解答と激励のコメントをお寄せください。

☆ **D780** --- い わ ゆ る Levman Defense のお手本になるような作品です。

☆ **D781** --- 中心になるのは、紛れと本手順における、3つの受けの目的（つまり defensive motifs）で、それが cyclic に変化します。

☆ **D782** --- キーに対する3つの受けの defensive motifs のみならず、そのいわば side-effects（白にメイトを与えてしまうような効果）にも注目してください。

☆ **D783** --- set play と本手順における changed mates を探してください。

#n: 白から指し始め、指定された手数で黒の K をチェックメイトにする手順を求める。黒は抵抗する。

v: 紛れ (try) を表す。個数は、テーマとなる紛れの数を表す。

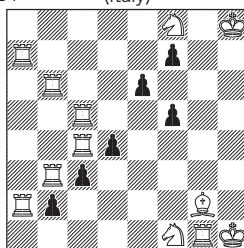
\*: 黒から指し始めたときの set play を表す。

作品投稿や、解答および短評は、次の Google Form を使ってお送りください。

<https://forms.gle/Cc5J6THbZxfq3ADx7>

### Issue 110

**D765** Daniele Guglielmo Gatti  
C+ (Italy)



#2vvvvv

(12+6)

Tries: 1.Bb7/Bc6/Bd5/Be4/Bf3?

1...f6/e5/f4/d3/c2!

Key: 1.Ba8!

1... b1=any/c2/d3/f4/e5//f6

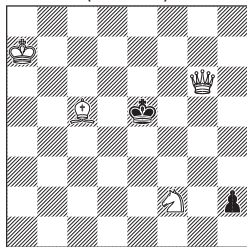
2.Rh2/Rh3/Rh4/Rh5#/Rh6//Rh7#

明らかに成駒とわかる R が 5 枚も！  
ユーモア作品。

須川：邪魔にならない所へ B を移動で  
すね。

及川：Rook のラインを閉じないよう最  
遠移動。

**D766** Zoltan Labai  
C+ (Slovakia)



#3 (4+2)

Set: 1...Kf4 (a) 2.Bd4 --- 3.Qg4#

Try: 1.Sg4+?

1...Kd5 (b) 2.Se3+ Kxc5/Ke5 3.Qb6  
(model mate) /Qf5#

but 1...Kf4!

Key: 1.Be7! (2.Qe4#)

1...Kf4 (a) 2.Qe4+ Kg3 3.Bh4#

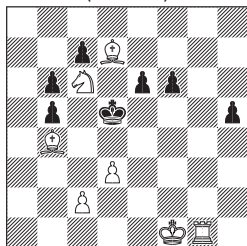
1...Kd4 (c) 2.Qd3+ Ke5 3.Qe4#  
(model mate)

1...h1=Q/B 2.Qd6+ Kf5 3.Qf6#  
(model mate)

Composer: Changed White's second move after 1...Kf4, echo mate 3.Qf5# and Qg4#, 3X model mates.

須川 : 1.Be7! が 1...h1=Q を間に合わない見事な 1 手。

**D767** Zoltan Labai  
C+ (Slovakia)



#3 (7+7)

Tries: 1.Kf2? e5!; 1.Ke2? f5!

Key: 1.Rg3! zz

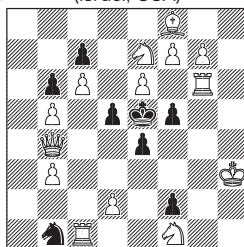
1...e5 2.Se7+ Kd4 3.c3#

1...f5 2.Re3 --- 3.Re5#

1...h4 2.Rg4 ---/e5 3.Rd4/Se7#

1...e5 に対応するために、Pd3 に P とは別の駒でヒモをつける必要があります。そのためには 1.Ke2? が最も自然な手ですが、それだと 1...f5 に対して 2.Re1? で e 筋にまわったとき、wK が邪魔をされていて失敗します。

**D768** Leonid Makaronez  
C+ Rauf Aliovsadzade  
(Israel, USA)



#3 (14+8)

Set: 1...e3 2.dxe3 ---/d4 3.Qf4/  
Qxd4#

Key: 1.Sxd5! zz

1...e3 2.Qf4+ Kxd5 3.Se3#

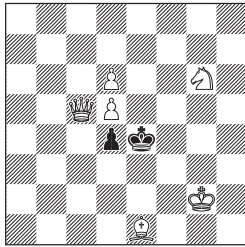
1...Kxd5 2.Rc5+ bxc5 3.Qxc5#

1...f4 2.Rg5+ Kxe6 3.Qe7#

1...S~ 2.Qc3+ Kxd5 3.Se3#

1...e3 の変化に対する set play と after key の changed mate が中心。しかし、set で 1...Kf4 と逃げられるとメイトがまったく存在しないために、1.Sxd5! はほぼ必然です。

**D769** Petrasin Petrasinovic  
C+ (Serbia)



#4 (6+2)

1.Bh4!

1...d3 2.Qc4+ Ke3 3.Qc3 Ke2/Ke4  
4.Qe1#/Qe5#

2...Kf5 3.Qxd3+ Kg4 4.Qf3#

1...Kd3 2.Kf3 Kd2 3.Bg5+ Kd1/  
Kd3/Ke1 4.Qc1#/Se5#/Qc1#

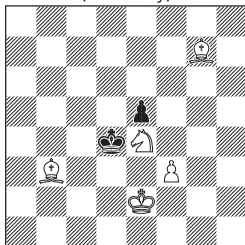
1...Ke3 2.Qc2 d3 3.Qc3 Ke2/Ke4  
4.Qe1#/Qe5#

1...Kf5 2.Qc2+ d3 3.Qxd3 Kg4  
4.Qf3#

2...Kg4 3.Qe2+ Kf5 4.Qe6#

いかにもこの作者らしい作品。特に難しい手はないものの、変化は豊富です。

**D770** Thomas Woschnik  
C+ (Germany)



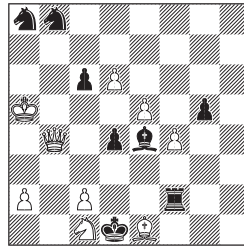
#7 (5+2)

1.Kf2! Kd3 2.Bf6 Kd4 3.Bh4 Kd3  
4.Bg3 Kd4 5.Bh2 Kd3 6.Bg1 Kd4

7.Kf2#

こういう形では、バッテリーを使うのが常識です。

**D771** Yuri Arefiev  
C+ (USA)



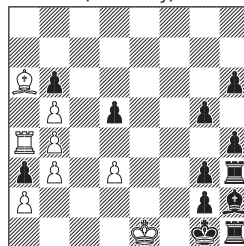
#11 (9+8)

1.Se2! Kxe2 2.Qd2+ Kf3 3.Qxf2+  
Kg4 4.Qg3+ Kf5 5.Qxg5+ Ke6  
6.Qe7+ Kf5 7.Qf6+ Kg4 8.Qg5+ Kf3  
9.Qg3+ Ke2 10.Qf2+ Kd1 11.Qd2#

Composer: "Pursuit race" (The fugitive was caught and brought back)

プロブレムというよりは、チェックが続くのですと詰将棋的。黒のKが遠路はるばる switchback するところがとても愉快です。

**D772** Udo Marks  
C+ (Germany)



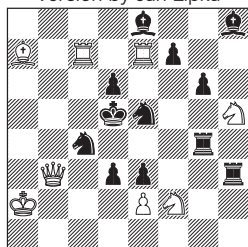
#20 (8+12)  
Black begins

1...d4 2.Bc8 g4 3.Ra7 h5 4.Kd2 Kf2  
 5.Rf7+ Kg1 6.Bf5 Kf2 7.Bxg4+ Kg1  
 8.Bf3 Kf2 9.Bxh5+ Kg1 10.Bf3 Kf2  
 11.Bg4+ Kg1 12.Re7 Kf1 13.Re1+  
 Kf2 14.Re2+ Kf1 15.Bxh3 Kg1  
 16.Kd1 Kf1 17.Bxg2+ Kg1 18.Ke1  
 h3 19.Bxh3 g2 20.Rxg2#

1手目から3手目の黒Pの順番はランダムです。wPが成るのがこういう形ではよくありますが、この作品ではそうではなく、KとRとBだけで押しつぶすことができるのが意外。

Jan Lipkaさんから、ポーランドの作家による不完全作のヴァージョンの投稿がありましたのでご紹介します。

Adolf Brill  
 v1 Przegląd Szachowy 1937  
 Version by Jan Lipka

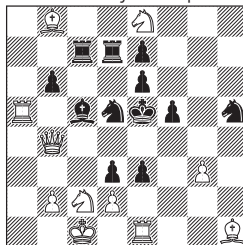


#2 (8+12)

1. Sd1! [2. Sc3#]  
 1... Re4/Sd7/Sc6/Sf3  
 2. Qxd3/Qb7/Qb5/Sxe3#;

Version – Jan Lipka, moving the black rook from h4 to g4 liquidates the dual 1... Sg4 2. Sf4# / Qxc4#

Tadeusz Czarnecki  
 v2 Szachista Polski 1946  
 Version by Jan Lipka

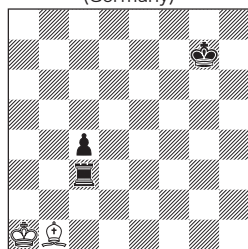


#2 (11+12)

Set: 1... Bd4 [a]/Bxb4 [b]  
 2. Qxd4 [A]/Rxe3 [B]#  
 1. Sxe3! [2. Sg4#]  
 1... Bd4+ [a]/Bxb4 [b]  
 2. Sc4# [C]/Sc2 [D]#

1... Bd6+/Bxe3+ 2.Sc2/Qc3#  
 Version – Jan Lipka, adding the white pawn b2 liquidates the cook  
 1.Qb2!+.

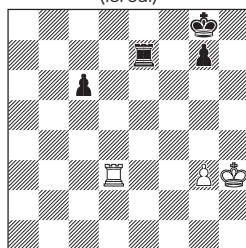
**E279** Rainer Staudte  
Michael Schlosser  
(Germany)



Draw

(2+3)

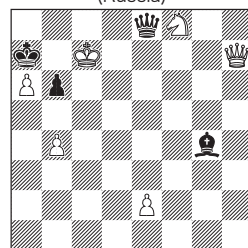
**E280** Michael Pasman  
(Israel)



Draw

(3+4)

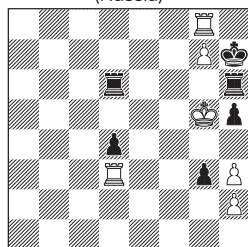
**E281** David Gurgenzidze  
(Russia)



Win

(6+4)

**E282** David Gurgenzidze  
(Russia)



Draw

(6+6)

## エンドゲーム

**担当者**

**塩見 亮**

**ジャッジ 2025**

**Arpad Rusz (Romania)**

今回は4題です。実戦派には前半2題、プロブレム派には後半2題がおすすめです。1問でも、そして部分解答でもOKですので、ぜひ解答・短評をお寄せください！

Draw: 白から指し始め、ドローになる手順を求める。

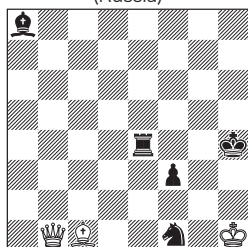
Win: 白から指し始め、白勝ちになる手順を求める。

作品の投稿や解答または短評は、次のGoogle Form を使ってお送りください。

<https://forms.gle/wp73DTii6b4EAdNR7>

## Issue 110

E276 Pavel Arestov  
(Russia)



Draw

(3+5)

1.Bg5+! (1 point)  
 1...Kxg5 2.Qb5+!! (2 points)  
 2...Kh4! 3.Qxf1 Re1! 4.Kh2! (3 points)  
 4...Re2+! 5.Kg1 Rg2+ 6.Kh1 f2  
 7.Qc4+ Rg4+ 8.Kh2 (4 points)  
 8...Be4 9.Qf1! (5 points)  
 9...Rg2+!? 10.Qxg2! Bxg2 11.Kxg2  
 Draw

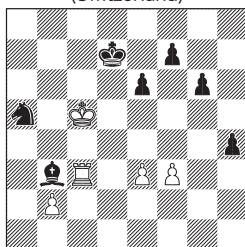
[1.Kg1? Sg3 2.Qb8 (2.Be3 Rxe3-+;  
 2.Bg5+ Kxg5-+) 2...Re1+ 3.Kf2 Re2+  
 4.Kg1 Rg2#]  
 [2.Qxf1? try 2...Re1!! 3.Qxe1 f2+-+]  
 [2...Kg4 3.Qxf1=; 2...Kf4 3.Qb8+!=]  
 [4.Qxe1+? f2+ 5.Kh2 fxe1B!-+]  
 [4...Rxf1 stalemate]  
 [5.Kh1? Bd5 (Be4) 6.Kg1 Rg2+ 7.Kh1  
 f2 8.Qxg2 f1Q+-+]  
 [6...Rc2 7.Kg1 Rg2+ 8.Kh1=]  
 [7...Kh3 8.Qh4+! Kxh4 stalemate]  
 [8...Rxc4 stalemate]  
 [10.Kh1? Rg1+ 11.Kh2 Rh1+!  
 12.Qxh1 Bxh1-+]

中嶋：白のB,Qを捨ててスタイルメイト

を狙いたいですが...

●その通りです。難しいのはその方法。  
 1.Bg5+! と捨てて 2.Qxf1 とするのが  
 一番シンプルですが、2.Re1!! ~ 3...f2+  
 という狙いにはまります。いったん  
 2.Qb5+! として BK を 4 段目に呼び寄  
 せてから 3.Qxf1 と取り、4.Kh2! がス  
 テイルメイト狙いのひねった手順。先の  
 7...Rg4 を用意して 2...Kh4! と戻るのが  
 最強の抵抗ですが、やはり 8.Kh2! で  
 ステイルメイトを保てます。

E277 Beat Neuenschwander  
(Switzerland)



Draw

(5+7)

1.Kb4! (1)  
 1...Bd5 (2)  
 2.e4 Sc6+ 3.Kc5 (3)  
 3...Ba2 4.Ra3! (4)  
 4...Bb1 5.Ra1 Bc2 6.Rc1 Bb3 7.Rc3  
 Ba2 8.Ra3 Bb1 9.Ra1 Bc2 10.Rc1  
 Ba4 11.Ra1! (5)  
 11...Bb3 12.Ra3 Bc2 13.Rc3 Bb1  
 14.Rc1 Ba2 15.Ra1 Bb3 16.Ra3  
 Draw  
 [1.Kb5? Ke7! 2.Kxa5 (2.Rc7+ Kd6  
 3.Rc1 Sc4-+) 2...Bd1-+]  
 [1...Ke7 2.Rc7+! Kf8 (2...Kf6  
 3.Kxa5=) 3.Rc1!= ; 1...Bc4 2.Kxa5



Bf1 (2...Be2 3.Rc2 Bxf3 4.Rf2 Bd5  
5.Rxf7+ Kc6 6.Rh7=) 3.Rb3! h3  
(3...Kc7 4.Rc3+ Kd7 5.Rb3=) 4.Rb8  
e5 5.Rh8 g5 6.b4 e4 7.fxe4 g4  
8.b5=]

[7...Ba4 8.Ra3 leads to the main  
line]

[11.Rc4? Bd1]

●白は黒のhポーンを止めつつ、B,Sにプレッシャーをかけるというダブルタスクがあります。初手はBとSの両方に当てる1.Kb4が正解。黒にはいくつかの手段があります。

まず、1...Ke7とかわして2...Bd1を狙う手。これには2.Rc7+とチェックしてから3.Rc1!が正しく、なぜならf5～Kf6という黒が勝つための形を乱すためなのですが、これは相当調べないと理解不能です。

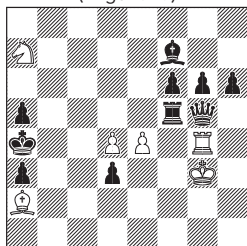
また、1...Bc4～2...Bf1とパスポーンを支えに来た場合は、3.Rb3!～Rb8～Rh8と後ろに回る手が間に合います。

さらに、1...Bd5に対しては本譜のように進み、3...Ba2でB,Sを逃がしたように見えますが、4.Ra3からRでBをぐるぐると追い回します。...Ba4と逃げた場合はRa1(Ra3)として、今度は逆回転で追い回すことができます。このユーモラスなRとBの追いかっけが、本問のproblemとしてのテーマでした。中嶋：(1.e4などとして) 実戦的には十分ドローのように見えますが…

●そうですね。Bを両回転で追いかけるという作意に至るまでの変化があまりに難解すぎました。

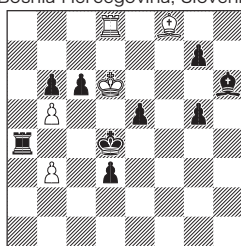


**H1542** Jorge Lois  
C+ (Argentina)



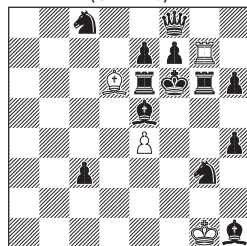
H#2 2sols (6+10)  
b)Ba2→d5

Fadil Abdurahmanović  
**H1543 C+** Marko Klasinc  
(Bosnia Hercegovina, Slovenia)



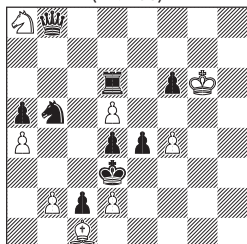
H#2.5 2sols (5+9)

**H1544** Mykola Vasyuchko  
C+ (Ukraine)



H#3 2sols (4+13)

**H1545** Abdelaziz Onkoud  
C+ (France)



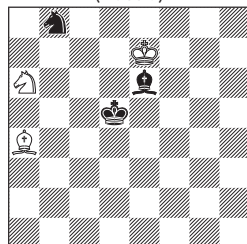
H#3 2sols (8+9)

**H1546** Yuri Arefiev  
C+ (Russia)



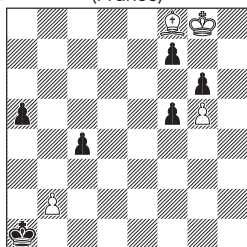
H#3.5 2sols (3+12)

**H1547** Aleksandr Pankratiev  
C+ (Russia)



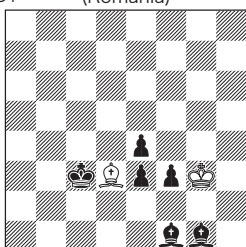
H#4 4sols (3+3)

**H1548** Sébastien Luce  
C+ (France)



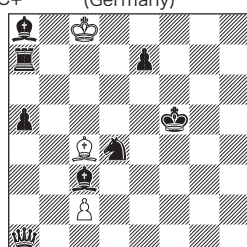
H#4.5 2sols (4+6)

**H1549** Ovidiu Crăciun  
C+ (România)



H#5 (2+6)

**H1550** Thomas Woschnik  
C+ (Germany)



H#5 (3+8)

## ヘルプメイト

### 担当者

藤原俊雅

ジャッジ 2025

Hans Gruber & Ulrich Ring  
(Germany)

●本号は9題の新作発表です。ご解答と短評をよろしくお願いいたします。

●前回後任募集について書きましたが、特に反響無し。引き続き募集していますので、後任の方がいればメールかXのDMにご連絡いただければと思います。よろしくお願いいたします。海外作家とのコミュニケーションも取れますし、ヘルプメイトの勉強ができる良い機会と思います。

H#n : 黒が白に協力し、n手で黒をメイトにするような手順を求める。通常黒から指し始める。白から指し始める場合は、0.5手分を引いた形で表記する。

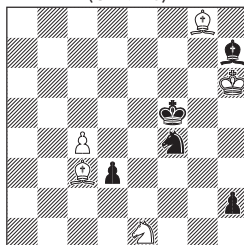
sols : solutions すなわち「解」のこと。指定された数だけ解があり、これは余詰ではなく、作意設定のうちに入っている。  
b) c) ... : 問題図をa)とし、指定のよう配置を変えた図をb) c) ...として、いずれもa)と同じ条件で解くこと。

作品の投稿や解答または短評は、次のGoogle Formを使ってお送りください。

<https://forms.gle/rzKJFJ8hSamjRDv79>

## Issue 110

H1525 Mykola Vasyuchko  
C+ (Ukraine)



H#2 (5+5)

b)-Sf4 c)-Se1

a)1.h1=B Sc2 2.Be4 Se3#

b)1.Ke4 Sg2 2.Bf5 Bd5#

c)1.Kg4 Be6+ 2.Kh4 Be1#

及川：1番手にぴったりの軽作。

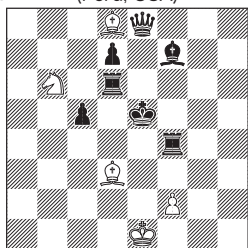
塩見：h2のPを成る手から考えた。

●特にc)では、白Sを外してどう詰むの?と思いますが、愉快的な読みがあったもの。

須川：a)初手は第一感でしたが、そっぽに行くSがちょっと盲点でした、b)守りの駒が1つ無いのが一番苦労しました、c)Se1が不要だなんてビックリです  
●3つ子を合わせて1作なので、基本的には纏めてのコメントで大丈夫ですよ！

●この作品の場合はそれぞれ独立した綺麗な解という感じですが、対比ポイントを挙げるならメイト駒3通りでしょうか。

Antonio Tarnawiecki  
Steven Dowd  
H1526  
C+ (Peru, USA)



H#2 2sols (5+7)

1.Re6 Be42.Kd6 Sc4#  
1.Be6 Bf5 2.Kd4 Bf6#

須川：BをKの隣に移動する手には不利感がありますね

塩見：f2Pを生かす詰み形を考えた。

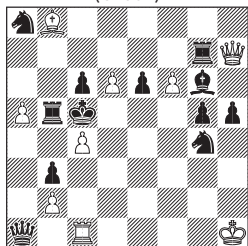
●このPが少し残念な配置で、白Kだけで済ませたいところです。

●詰形は2解ともモデルメイトで綺麗です。

及川：Grimshaw interference。bRとbBが同地点に移動する初手が良いですね。

●同地点着手は一種の対比ですが、見過ごされやすくもあります。及川さんはいつもその辺りまで見てくださっていますね。

Michal Dragoun  
C+ (Czech)



H#2 4sols (9+12)

1.Rd7 Qe7 2.Rxd6 Qxd6#  
1.Bd3 Qe4 2.Bxc4 Qxc4#  
1.Rc7 Re1 2.Kxd6 Qe7#  
1.Bc2 Ba7+ 2.Kxc4 Qe4#

●この作品は詳しく解説する必要があります。そうです。

●白Qが黒のRとBに塞がれた形。慣れた方ならブリストル系の手順がイメージできるかと思います。1解目は1.Rd7を追いかけるように1...Qe7。2手目は取り合いでのメイト。2解目は、今度はBを追いかけるようにQが動いて、2手目で駒を取り合います。

●3、4解目を考えてみます。さきほどは黒R、Bで白Pを取りましたが、今度は白Pに付いたヒモを黒R、Bで外し、黒Kで白Pを取りにいきます。そしてW1で実行したQの移動を今度は最終手で実行し、ピンメイト。2+2の全体構成が楽しめますね。

塩見：ピンにされるか、取られるか。

須川：初手がR&Bでc筋d筋着手でd筋の時は最終手が駒取りなんですね。面白い。

●R&Bってルークとビショップのことですね、リズム&ブルースの話かと・・・(笑)

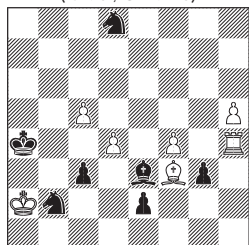
及川：BristolとMagnet。RookとBishopの各2パターンが同じ構成で、上手く作られています。

●さすがに一流作家による作品で、2手でありながら見所が多く、立派に新作になっています。こういう短編が投稿されてくると嬉しいです。

作者：2+2 solutions. In the first pair bicolor Bristol with sacrifices of black pieces, in the second pair

delayed bicolour Bristol with self-pin of black pieces. Reappearance of two white moves as first and mating ones, diagonal/orthogonal correspondence.

Leonid Lyubashevsky  
Sergey I.Tkachenko  
**H1528** Andrey Frolikin  
C+ (Israel, Ukraine)



H#3 (7+7)  
b)Ka2→a6

- a) 1.Bxf4 Bg4 2.Bc7 d5 3.Ba5 Bd7#  
b) 1.Bxd4 Be4 2.Bxc5 f5 3.Ba3 Bc2#

●白 R のラインを通すためには P 突きが必須。それに伴い、初手の白 B の動かし方が決定します。

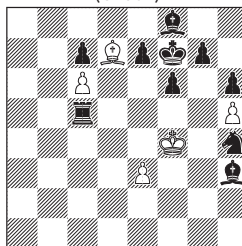
及川：両王手。wP の役割交換がアクセント。

須川：a の邪魔にならないようにそっぽに行く Bg4 が好手

●もう少し深みが欲しかったところでしょうか。

作者：Screening (also known as shielding: avoidance of undesirable check or, in this case, of pinning); battery construction; pawn annihilation; dual avoidance.

**H1529** Miroslav Svitek  
C+ (Czech)



H#3 2sols (5+10)

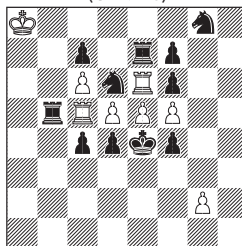
- 1.Bf5 e4 2.Bh7 e5 3.Bg8 e6#  
1.Rd5 Bf5 2.Rd6 Bh7 3.Ke6 Bg8#

●この作者が連作している、白駒と黒駒が 2 解で同じ動きをするテーマです。Andra っていうのかな？

及川：双方の B が同地点移動。面白い。須川：2 解の解図難易度の差が大きかったです

●B 移動以外の着手に対比がなく、ただ手順を成立させるための作業になってしまっています。ここにもう一捻りあれば好作になっていたかもしれません。

**H1530** Evgeny Gavryliv  
C+ (Ukraine)



H#3 2sols (8+11)

- 1.Ra5+ Rxa5 2.Sb5 exf6+ 3.Kxd5 Rxb5#  
1.Re8+ Rxe8 2.Se7 g4 3.Kxe5

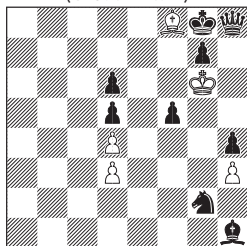
Rxe7#

及川：Maslar theme ですね。双方の初手がいい感じ。

●この評がほとんど全てを説明しています。Maslar theme とは、白駒がクリティカルムーブして、そのラインに黒駒を挟み込むことで、黒Kを移動させるという手筋のこと。ヘルプでは頻出です。

●ユーモラスな初手を見るべき作品で、小品として悪くないですが、白2手目が対比になっていないので多少の残念さがあります。

H1531 Christopher J.A. Jones  
C+ (Great Britain)



H#4.5 (5+9)  
b)wBf8→b & bSg2→w

a) 1...Bxg7 2.Se3 Kf6 3.Sg4 hxc4 4.Kh7 g5 5.Qg8 g6#

b) 1...Sxh4 2.Be4 dxe4 3.Qxh4 exf5 4.Qxh3 f6 5.Qh8 f7#

● a) はh筋のPを突いていく手順。d筋の駒も動かないですし、特に語ることはなさそうです。

● b) は白Pが進んでいけばメイトになる形ですが、黒側に指せる手がありません。黒に手を与えるために折角の白Sを捨ててしまうのが好手。あとは白Pの行

進を待つように黒Qがテンポムーブを続けなければメイトになります。

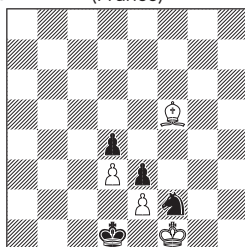
●一般的に、ツインで2枚の駒を変更するのは味悪ですが、本作の設定はさほど気にならず、受け入れやすいものです。作者は最近、このような2枚変更のツイン（しかも強い対比がない）の可能性を模索しているようで、今後の作品にも注目ですね。

及川：双方のSg2が取られるのが共通点。作品としては(b)の方が良い出来だと思う。

●そうですね。おそらくb)を作ってからa)を追加したのでしょう。

須川：bQがh筋の掃除をして戻る順は面白いですね

H1532 Sebastien Luce  
C+ (France)



H#6 2sols (4+4)

1.Sh3 Kg2 2.Kxe2 Kg3 3.Kf1 Bg4 4.Kg1 Be2 5.Kh1 Bf1 6.Sg1 Bg2#

1.Sxd3 Kg2 2.Sc1 Kf3 3.d3 Ke4 4.dxe2 Kd4 5.e1=R Kc3 6.e2 Bc2#

●少ない駒数で成立している長編2解。

須川：Pを成らせる手は間に合わないのでこの詰上が本命でした。左右で2解は価値がありますね

及川：wPe2を消去する2手順。Sh3の

方は白の初手と最終手が同一マス着手。

● 1 解目で 2.Ke1 とすると 4...Be2 が指せず詰みません。また 2 解目では白 K を何度も動かすところがハイライト。

作者 : In both variations, white King moves away from pawn e2 with two different goals : in the first variation to allow black King to reach the h1 corner where it will be mated. In the second, to be able to make "a turning movement" f3-e4-d4-c3 to mate black King on d1 after three self-blocks: one on c1 by the Knight, one in e1 by a black Rook of promotion, the last one by a pawn in e2. Kozhakin in the first variation and model mates.

に Qe5 でブロックすると b1B が通れません。よって先に c2P から取っていくことになります。

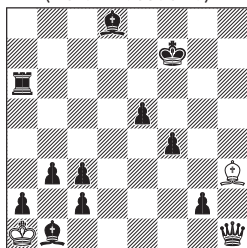
●それにしても、この B の縦横無尽の大立ち回りは凄いですね。6...Bg2 と tempo で我慢し、最終手で当初の位置に戻ってくるのが見事なフィナーレ。

●いつもながらオリジナリティのある長編を投稿してくれる作者の、最新の好作です。

及川 : wB の一筆書き & 帰還。Bxc2 ~ Bxg2 が気持ちのいい流れ。

作者 : Chernous theme .Closed walk wB capt. 7,Klasinc theme (wB-bQ). Tempo wB, Model mate.

H1533 Zlatko Mihajloski  
C+ (North Macedonia)



H#6.5

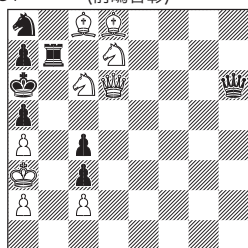
(2+12)

1...Bf5 2.Bg5 Bxc2 3.Rf6 Be4 4.Ke6  
Bxg2 5.Bg6+ Bf1 6.Qe4 Bg2 7.Kf5  
Bh3#

●セルフブロックに使う黒の B と Q が、黒 P に隠されて眠っています。白 B が動き回って P の目隠しを取っていくことが要求されます。

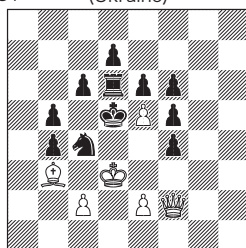
● g2P を外すのがシンプルですが、先

**S349** Hiroaki Maeshima  
C+ (前嶋啓彰)



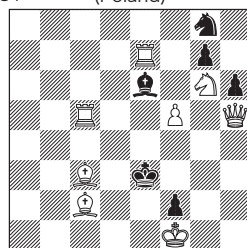
S#2 (9+8)

**S350** Sergiy I. Tkachenko  
C+ (Ukraine)



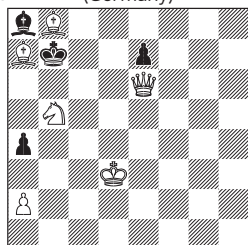
S#2 (6+11)

**S351** Jan Lipka  
C+ (Poland)



S#3 (8+6)

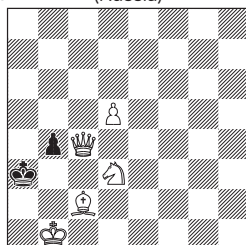
**S352** Mirko Degenkolbe  
C+ (Germany)



S#9 Zeroposition (6+4)

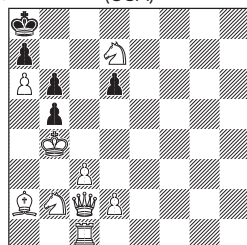
- a) Kd3→e4
- b) Bb8→h2

**S353** Anatoly Stepochnik  
C+ (Russia)



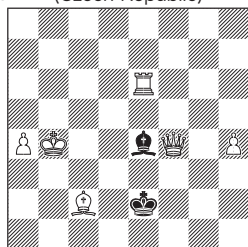
S#10 (5+2)

**S354** Steven Dowd  
C+ (USA)



S#10 (9+5)

**S355** Jozef Holubec  
C+ (Czech Republic)



S#12 Zeroposition (6+2)

- a) Ph4→b2
- b) Pa4→h2



## セルフメイト

### 担当者

前嶋啓彰

ジャッジ 2024-2026

Sven Trommler (Germany)

☆今号は7題の出題です。

☆次号以降向けの作品が非常に少なくなっています。作家の皆様からの投稿をお待ちしています。

☆ S349 はセルフメイトの頻出手筋です。白の駒配置が強すぎるので弱めますが、適切な弱め方を探してください。

☆ S350 は余裕があれば Set play との関連にも着目してみてください。

☆ S351 は黒がメイトする駒を探してください。

☆ S352 以降は長編です。S352,S355 はともに Zeroposition であり、図面の局面は解かずに a),b) それぞれで指定された駒を動かした後の局面を解いてください。

☆ S352 はそれぞれで白 K がメイトされる位置を探してください。

☆ S353 は Logical miniature です。そのままだと白 S が白 K のメイトを妨害するので、別の場所に動かしてください。

☆ S354 は Zugzwang で最終形になりますが、途中で手に困らないように工夫してください。

☆ S355 は難解作。ヒント：白 K は対称的な位置でメイトになります。

S#n：白から指し始め、白が自分を n 手でメイトにさせるよう黒に強制する手

順を求める。黒は抵抗する。

Zeroposition：問題図は解を求めるものではなく、a) b) ... の指定のように配置を変化させた図を解く。

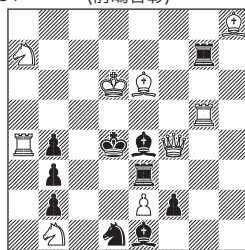
作品の投稿や解答または短評は、次の Google Form を使ってお送りください。

<https://forms.gle/LuPr6hd65SYZvCfR7>

### Issue 110

☆ 110 号には6名の方から解答をいただきました。ありがとうございます。

S336 Hiroaki Maeshima  
C+ (前嶋啓彰)



S#2

(9+10)

1.Rg3 (2.Rxb4+ Bxb4#)

1...Sc3 2.Sb5+ Sxb5#

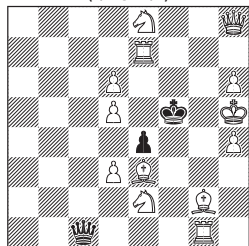
1...Rc3 2.Sc6+ Rxc6#

☆ いきなり 1.Rxb4? は 1...Bxb4+ に 2.Rc5 があるのでメイトになりません。そのため R を動かしますが、1...Rxe2 というディフェンスがあるため動かす場所は g3 に決まります。

Arefiev: Good motivation for the first move to neutralize Black' s hidden defense 1...Rxe2.

及川：c3 マスに2種類 (bR、bS) 移動。  
 須川：初手 R の移動先が黒 Rxe2 の防  
 手があるので g3 に限定できるのに納得  
 則内：入門とは御謙遜なので応手 Rxe2  
 等をよく調べて初手を探す。  
 中嶋：c3 を塞いだ駒でとどめを刺す。

**S337** Masakazu Nakajima  
 C+ (中嶋正和)



S#6 (13+3)

1.Rf1+ Qxf1 2.Bh3+ Qxh3 3.Sg3+  
 Qxg3 4.Qe5+ Qxe5 5.Rf7+ Qf6  
 6.d4 Qxf7#

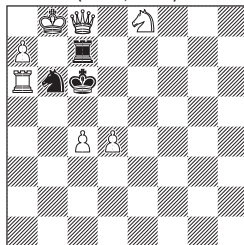
☆黒 Q を f7 まで連れていくことにより  
 メイトになります。

Arefiev: Brilliantly! hierarchical  
 sacrifices of w.figures lead to  
 unexpected Zugzwang.

須川：紛れが多いので、簡単そうで意外  
 とやっかいでした。

則内：黒の女王を翻弄する手順は詰将棋  
 的に高く評価すべきと思う。

Antonio Tarnawiecki  
**S338** Steven Dowd  
 C+ (Peru, USA)



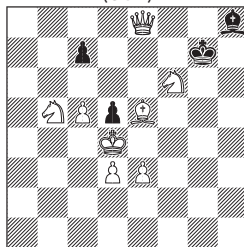
S#9 (7+3)

1.Sg7 Kd6 2.Sf5+ Kc6 3.Qe8+ Rd7  
 4.Qe4+ Rd5 5.a8=R Kd7 6.Qe7+  
 Kc6 7.Qe8+ Rd7 8.Qc8+ Rc7  
 9.R8a7 Rxc8#

☆手順中、白は2回パスをしたい局面に  
 なります。それを 5.a8=R から 9.R8a7  
 として実現するのがとても面白い手順。  
 Arefiev: The promotion of w.pawn in  
 the rook is an outstanding moment  
 in the game.

Sunouchi: Well comebacks by wQ &  
 bR, and nice promotion for a tempo.

**S339** Steven Dowd  
 C+ (USA)



S#9 (8+4)

1. Sa7! c6! (1...Kh6? 2. Bf4+ Kg7 3.  
 Bg5! c6 4. Qe7+ Kg6 5. Qh7+ Kxg5

6.Sc8 Bg7 7. Qh5+ Kxf6 8. Qf5+ Kxf5#)

2. Sc8 Kh6 3. Bf4+ Kg7 4. Se7 Kxf6 5. Be5+ Kg5! (5...Ke6? 6. Bg7 Bxg7#)

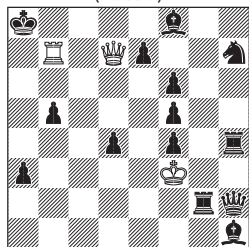
6. Qg6+ Kh4 7. Qg3+ Kh5 8. Qh3+ Kg5 9. Bg7 Bxg7#

☆解答者はいませんでした。

☆一般的には欠点とされる short variation もありますが、Double masked royal battery のマスクの外し方が異っており、この場合は良いものと考えられると思います。

Author: WS takes a long journey over a7 and c8 to e7. Bishop switchback. Black can't bring out his king too early. WQ waits patiently to spring into action. Model mate.

**S340** Yuri Arefiev  
C+ (Russia)



S#10 (3+14)

1.Qc6!

(2.Rxb5+ Ka7 3.Rb7+ Ka8 3.Rb7+ Ka8 4.Rb3+! Ka7 5. Rxa3+ Kb8 6.Rb3+ Ka7 7.Rb7+ Ka8 8.Rb2+(Rb1?) Ka7 9.Qb6+ Ka8 10.Ra2+ Rxa2#)

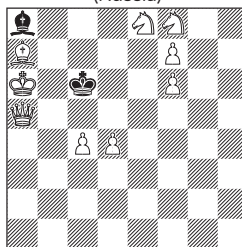
1...e6(e5)! 2.Rxh7+! Kb8

3.Rb7+ Ka8 4.Rf7+! Kb8 5.Rxf8+ Ka7 6.Rf7+ Kb8 7.Rb7+ Ka8 8.Rg7+!(Rh7?) Kb8 9.Qc7+ Ka8 10.Rg8+ Rxg8#

☆解答者はいませんでした。

☆長いセルフメイトで、本手順と同手数の threat が付いているのは非常に好ましいものと捉えられます。手順の微妙な違いもうまく制御されています。

**S341** Anatoly Stepochkin  
(Russia)



S#12 (9+2)

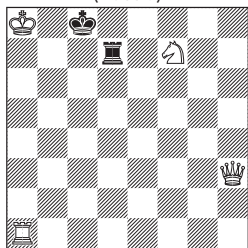
1...Bb7#

1.Sg7! Kd6 2.Sf5+ Kc6 3.Qd5+ Kc7 4.Bb6+ Kc8 5.Qe6+ Kb8 6.Qe5+ Kc8 7.Sd6+ Kb8 8.Ba7+ (Switchback) Kc7 9.Sb7+ Kc8 10.Qe8+ Kc7 11.Qd8+ Kc6 12.Qa5 (Switchback) B:b7 # (4...Kb8 5.Qe5+ Kc8 6.Sd6+)

☆解答者はいませんでした。

☆難解作。ナイトの位置を変えながら元の局面に戻します。

S342 Aleksandr Pankratiev  
(Russia)



S#18

(4+2)

1.Qe6 Kc7 2.Ra7+ Kc8 3.Ra6 Kc7  
4.Qb6+ Kc8 5.Qc6+ Rc7 6.Qe6+  
Rd7 7.Rb6 Kc7 8.Rb7+ Kc8 9.Se5  
Kd8 10.Sc6+ Kc8 11.Sb4 Kd8  
12.Rb8+ Kc7 13.Qe5+ Rd6 14.Qg7+  
Rd7 15.Qg3+ Rd6 16.Qe5 Kd7  
17.Qe8+ Kc7 18.Sa6+ Rxa6#

☆解答者はいませんでした。

☆黒 K を追い回すタイプのセルフメイトで、最終局面が見えても解くのは難しいものです。

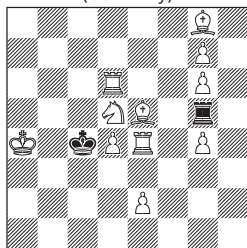
Hans Gruber さんより、PP109 の  
S335 に Dual の指摘をいただきました。

S335 (Pankratiev)

There is a dual: 26.Rc2+ Kd1  
(26...Ke1? is one move Shorter)  
27.Qd3+ Ke1 28.Qc3+ Kd1 29.Rd2+  
Ke1 30.Rd5+ Ke2 31.Qe3+ Qxe3#

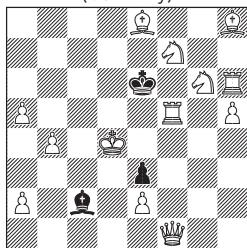


**F1663** Gerhard Maleika  
C+ (Germany)



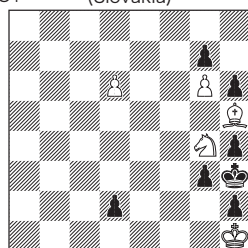
=2 (11+2)

**F1664** Gerhard Maleika  
C+ (Germany)



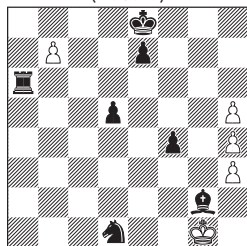
=2 (13+3)

**F1665** Milan Šumny  
C+ (Slovakia)



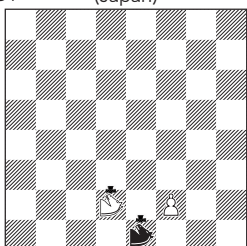
S#2 (5+7)  
Madrasi

**F1666** Klaus Wenda  
C+ (Austria)



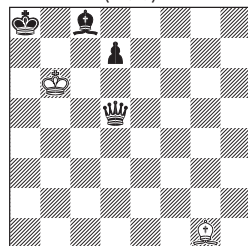
S#8 (5+7)  
AntiCirce Maximummer

**F1667** Mei Komai  
C+ (Japan)



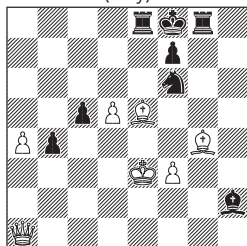
H#2 b) wPf2→e2 (2+1)  
K Madrasi  
Royal Mao d2 e1

**F1668** N. Shankar Ram  
C+ (India)



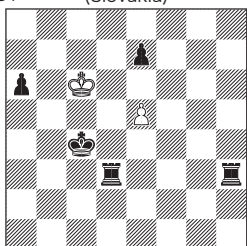
H#2 3 Sols (2+4)  
All In Chess

**F1669** Uberto Delprato  
(Italy)



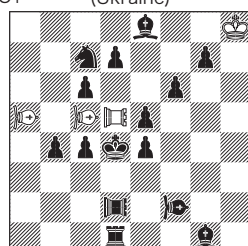
H#2 2 Sols (7+8)  
Chess 960

**F1670** Ľuboš Kekely  
C+ (Slovakia)



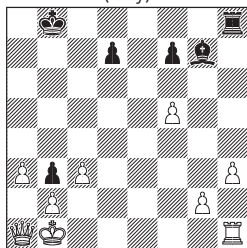
H#3 2 Sols (2+5)  
White Sting

**F1671** Mykola Vasyuchko  
C+ (Ukraine)



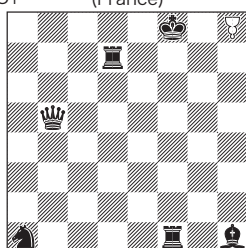
H#3 3 Sols (4+15)  
Pao 1+1  
Vao 2+1

**F1672** Uberto Delprato  
(Italy)



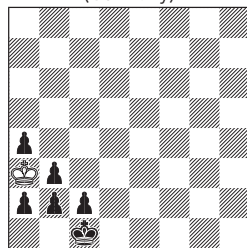
H#3 2 Sols  
Chess 960 (9+6)

**F1673** Roméo Bedoni  
Sébastien Luce  
C+ (France)



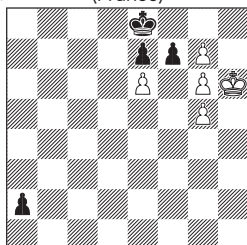
H#4  
Joker h8 (1+6)

**F1674** Udo Marks  
C+ (Germany)



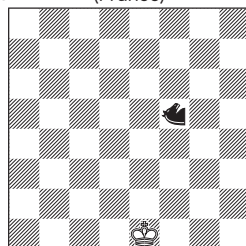
H=4 Zeroposition (1+6)  
a)+bPc3 b)bKb1 c)wKc4

**F1675** Sébastien Luce  
Ded. to V. Kotěšovec  
C+ (France)



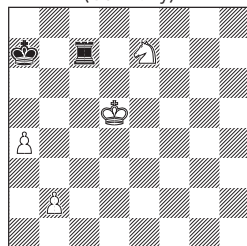
H==6  
PWC (5+4)

**F1676** Sébastien Luce  
C+ (France)



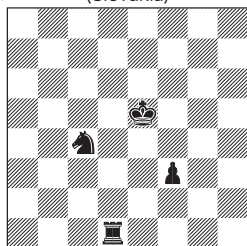
HS#4 b)bBf5 c)bRf5 (1+1)  
Zebra f5  
Haaner

**F1677** Torsten Linß  
C+ (Germany)



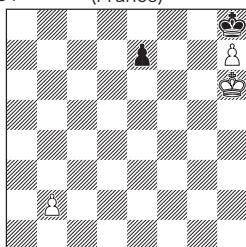
HS#10 (4+2)

**F1678** Ľuboš Kekely  
C+ (Slovakia)



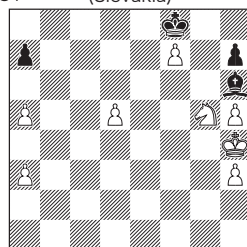
SH#6 b) bSc4→f4 (0+4)  
White Sting

**F1679** Sébastien Luce  
C+ (France)



SS#14  
PWC (3+2)

**F1680** Ľuboš Kekely  
C+ (Slovakia)



14→S#1 (8+4)  
White Sting

## フェアリー

### 担当者

Vlaicu Crisan (Romania)

ジャッジ 2025

未定

本コラムに、Gerhard Maleika、Milan Šumný、Uberto Delprato の三氏をお迎えすることができました。作家のみなさまからの惜しみないご支援のおかげで、2025 年の最終号では 18 作の新作を並べることができました。

### 対抗系

Gerhard は White correction の好例を 2 作提供してくれました。**F1663** と **F1664** において、決闘をするのはどの駒なのか見抜けるのでしょうか。Milan の **F1665** は魅力的 Meredith で、ヒントなしでも十分に味わえます。**F1666** の最終図では、黒が Rh1 でチェックメイトにして、b8 で成った白の駒が白 K の再生マスを通ります。

[ = : 最終目的がスタイルメイトであることを表示する。

Madrasi : 同種の駒によって取りをかけられている場合、その駒は動けない。

Anticirce : 駒を取るとき、取る駒 (K を含む) は初形位置に戻り、取られた駒は盤上から消える。取る駒の初形位置が何らかの駒 (取る駒と取られる駒を除く) によって占領されているときは、駒が取れない。細則は Circe に準じる。

Maximummer: 黒は可能な手の中で移動距離 (昇目の中心から、中心までの距

離) が最大の手を指すとする条件 (複数存在するときには、黒はそこから選択できる)。キャスリングの移動距離は K,R の移動距離を足したもの (0-0 は  $2+2=4$ 、0-0-0 は  $2+3=5$ )。チェックおよびメイトの概念はオーソドックスと同じ。]

### ヘルプ系

Wenigsteiner の **F1667** は、Mao の動きの特性を巧みに利用しています。尊敬するインドの作家は All In Chess の探究をさらに深めています。この条件では、双方が双方の駒を動かすことができ、1 手前と図が同一になる手は illegal とされます。本作は、Popeye 4.95 で発見され、4.97 で修正されたバグを指摘する例としても用いられました。Uberto は Chess960 における特殊なキャスリング・ルールを探究しています。**F1672** では、キャスリングの合法性を証明するために、基本的なレト口解析が必要です。Luboš は魅力的なフェアリー条件 White sting を導入しています。このルールでは、白は一度だけ、直前に動いた黒駒と同種 (K を除く) の白駒を空きマスに打つことができます。ただし、P は第 1 段および第 8 段には打てません。**F1673** では、フランスのデュオが Joker の動きを探究します。この駒は、直前に動いた駒の動きを模倣するものです。最後は、スタイルメイト (**F1674**) およびダブルスタイルメイト (**F1675**) で終わる 2 作の Kindergarten (盤面に K と P しかつかない) 作品です。Udo のミニチュアでは zeroposition にご注意!

続いて、helpselfmate が 2 局です。

Sébastien の Wenigsteiner **F1676** では Forsberg twins が用いられ、Torsten のミニチュア **F1677** では黒駒による 2 回の Rundlauf が示されます。[K Madrasi : Madrasi を K にも適用したもの。

Royal : K の代わりをする駒。チェックやメイトの概念を、K ではなく Royal 駒に適用する。

Mao : 最初に (0,1)、それから (1,1) と動く S。(0,1) のところに何か駒があるとその方向には跳べない。

Chess 960 : 変則チェスの一種。Fischer Random Chess と呼ばれる。詳細は [https://ja.wikipedia.org/wiki/チェス\\_960](https://ja.wikipedia.org/wiki/チェス_960) を参照。

Pao : Chinese piece の一つ。R のように動くが、駒を取るときはその線上で駒を一つ跳び越してその先（直後でなくてもいい）にある駒を取る。

Vao : Chinese piece の一つ。B のように動くが、駒を取るときはその線上で駒を一つ跳び越してその先（直後でなくてもいい）にある駒を取る。

zeroposition : ツイン設定のために便宜上使われる図。この指定があるときには、問題図そのものを解く必要はなく、そこから配置を変えた図 a) b) ... のみを解くこと。

== : 最終目的が双方スタイルメイトであることを表示する。

Platzwechselcirce (PWC) : 駒を取る時、取られた駒は取る駒のいた位置に再生する。8 段目に発生した P は任意の駒に成れ、その選択は取りを行った側が決められる。1 段目に発生した P は動けない。

Helpself : HS#n では、ヘルプで (n-1) 手指して、そこから S#1 になるような手順を求める。通常白から指し始める。

Zebra : (2,3)-Leaper。

Hanner : 着手のたびに、その駒が元々いたマス目はいわば盤上の穴になる。その穴には、駒が入ることも通過することもできない。]

### 連続系

3 局目の Wenigsteiner (**F1678**) は最後白が駒を打ってメイトにします。これは詰将棋ではなく、ちゃんとしたとしたチェス・プロブレムです。**F1679** では 3 種類の異なる promotion が現れます。**F1680** の問題設定は、黒がまず 14 手指して、その後で S#1 にせよというものです。

[serieshelp (SH) : (SH) : 黒が連続して指定された手数を指し、それから白が 1 手でメイトなどの目的を達成できるような手順を求める。黒は最終手を除いて、白にチェックをかけてはならない。seriesself (SS) : 白が連続して指定された手数を指し、それから黒が 1 手で白をメイト（あるいはスタイルメイト）にするよう強制される手順を求める。白は最終手を除いて、黒にチェックをかけてはならない。]

最後に、掲載された新作への短評を、ぜひお願いしたいと思います。短評は、ジャッジが選評を書く際に参考になり、作家自身が腕を上げるための貴重な糧となります。チェス・プロブレムは、何よりもまず解答者に楽しみをもたらすためのものです。解答者なくしてチェス・プロブレムは存在せず、Problem



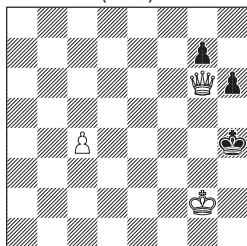
Paradise を刊行する最大の理由もなくなってしまう。すべての読者のみなさまに季節のご挨拶を申し上げるとともに、来年もみなさまの投稿にお目にかかれることを願っています。

新作の投稿、解答あるいは短評は、次の Google Form を使ってお送りください。

<https://forms.gle/r6jwvA5ALCBkxG6n6>

## Issue 110

**F1629** Narayan Shankar Ram  
C+ (India)



DS#9 (3+3)

1.Kh1? Kh3!

1.Kh2? h5!

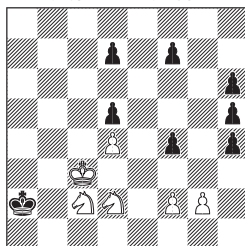
1.c5! h5 2.Kh1 Kh3 3.Qg5 g6/h4  
4.c6 h4/g6 5.Qg1 g5 6.c7 g4 7.c8=R  
g3 8.Rc4 g2+ 9.Qxg2#

Author: WP underpromotion and switchback.

則 内 : Only adjust timing for the mate, not to end in the draw.

Crisan: きわめてパラドキシカルな問題設定で、さらなる探究に値する。

**F1630** Udo Marks  
C+ after T.R. Dawson  
(Germany)



=12 (6+8)

1.f3! h3! (1... ~ 2.Sb3 see the main-line!)

2.gxh3 h4 (2... ~ 3.h4 ... see the main-line!)

3.Sb3 Kb1 (3... ~ 4.Sd2 ... see the main-line!)

4.Sb4 d6 (4... ~ 5.Sc2 ... see the main-line!)

5.Sc2 Ka2 (5... ~ 6.Sb4 ... see the main-line!)

6.Sd2 h5 (6... f~ 7.Sb3 ... see the main-line!)

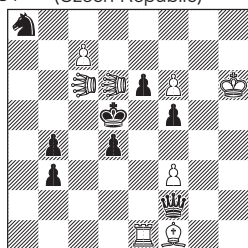
7.Sb3 Kb1 (7... f~ 8.Sb3-d2 ... see the main-line!)

8.Sb4 f6 (8... f5 9.Sc2 ... see the main-line!)

9.Sc2 Ka2 (9... f5 10.Sb4=) 10.Sd2 f5 11.Sb3 Kb1 12.Sb4=

Crisan: 正解者なし。黒のテンポを失うために、黒 K のまわりを白 S が踊るのがおもしろい。

**F1631** Michal Dragoun  
C+ (Czech Republic)



H#2 4 Sols (8+8)  
Lion c6 d6

1.Qxf1 Re5+ A 2.Kc4 LIc8# B  
1.Qxe1 Bc4+ C 2.Ke5 LIb8# D  
1.Qc2 LIb8 D 2.Qxc6 Re5# A  
1.Qg3 LIc8 B 2.Qxd6 Bc4# C

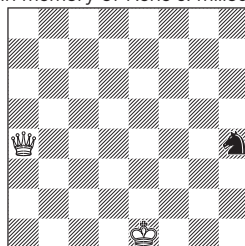
Author: 2+2 solutions with fourfold cyclic Zilahi and cycle of four white moves. In I and II unguard of squares for black king by capture of guarding pieces, in III and IV two-move self-block manoeuvre. Diagonal/orthogonal correspondence, all captures by black queen.

Oikawa: Cycle of white moves.

Sunouchi: Brilliant harmony with cycle Zilahi and white cyclic moves.

Crisan: 驚きべきメカニズムで、じっくり研究する価値がある。この野心的なアイデアを作者が完全図に作図化できたのは奇跡的だ。

**F1632 C+** Thomas Maeder  
In memory of René J. Millour (Switzerland)



H#3.5 2 Sols (2+1)  
3 Total Invisibles

1... [+wRa1] 0-0-0 (d1=wR)  
2.Sf3 Rd3 3.Sg1 TIXg1  
4.TIXd3(d3=bK,g1=wB) Qc2#  
Extended notation: 1... 0-0-0  
2.Sh4-f3 Rd1-d3 3.Sf3-g1 Bd4xg1+  
4.Ke4xd3 Qa4-c2#  
1...Qa3 2.Sg2+ TIXg2 3.TI~  
Qa1 4.TIXa1[+wRa1] 0-0  
(g2=wR,f1=wR,a1=bK)#  
Extended notation: 1... Qa4-a3  
2.Sh4-g2+ Rb2xg2+ 3.Kc1-b1  
Qa3-a1+ 4.Kb1xa1 0-0#

Author: In both solutions, one of the TIs is the castling rook, and one the white piece capturing the knight. The capturing black TI therefore has to be the bK.

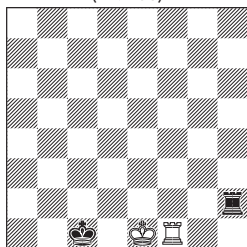
In the 1st solution, the bK has to move diagonally in B4; otherwise, Black would have left him in a check in B3. This means that it has to have come from e4, where it was protected from the wQ by wBd4.

In the 2nd solution, the white queen's dominance of the south-

west corner means that the bK has to come from c1 where it was protected by wRb2.

Crisan: 正解者なしだったのは不思議ではない。Total Invisiblesを使ったものの中で過去最高の作品。この設定で、最後は両側のキャスリングで詰む作品を誰か作ってみませんか。

**F1633** Sébastien Luce  
C+ (France)



H#3.5 2 Sols (2+2)  
Einstein

1...Rf6=B 2.Rb2=B Ke2 3.Ba1=S Kd3 4.Kd1 Bxa1=R#

1...Rf5=B 2.Kb2 Kd1 3.Ka1 Kc1 4.Ra2=B Bc2=S#

Author: Two ideal mates by Rook and more surprisingly by Knight, thanks to the condition.

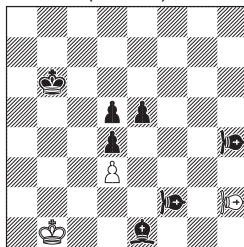
Oikawa: The difference between moving to the f5 square and moving to the f6 square. Einstein Chess is one of my favorite conditions, so I enjoyed it.

Sunouchi: It's friendly to enjoy solving in the hard condition of Einstein.

Crisan: 解くのに、新人作家をこの

フェアリーの世界に誘うのにも最適の作品。こんな作品をもっともっと投稿してもらいたい。

**F1634** Mykola Vasyuchko  
C+ Mykhailo Galma  
(Ukraine)



H#5.5 (3+7)  
Vao h2 f2 h4

1...VAg1 2.Kc5 VAXd4 3.VAfg3 VAg1 4.Kd4 VAh2 5.VAf2 Kc2 6.VAhg3 VAg1#

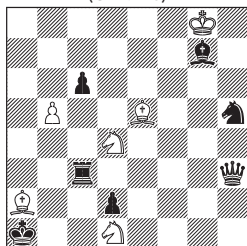
Authors: Kozhakin theme, Kniest theme, Klasinc theme, the return of white and black Vao.

Oikawa: White Vao's move is interesting.

Sunouchi: Black Vao should be fixed humorously on the diagonal line.

Crisan: 誰がいちばん最初に、似たようなマトリックスを Vao ではなく Pao を使って作れるだろうか？

**F1635** Mykola Vasyuchko  
C+ (Ukraine)



HS#3.5 2 Sols (6+7)

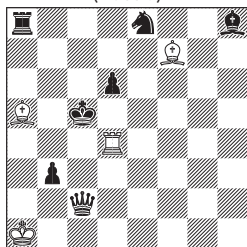
1...Qf1 2.Kh7 Qxb5 3.Bg8 Qb1+  
4.Sc2+ Qxc2#  
1...Qd7 2.Bb1 Qa7 3.Bh7 Qa2+  
4.Sb3+ Qxb3#

Oikawa: The long trip of bQ and wB.  
It's also good that the final positions  
of wK and wB are swapped.

Sunouchi: Black queen has long trips  
to take far shots beside his majesty.

Crisan: 動かない黒 Rc3 のピンを解答者  
がどう考えるのか、感想がもらえるもの  
だと思っていた。これははたして、架空  
のストラテジーのうまい装飾になってい  
るのだろうか？

Georgy Evseev, Valery Gurov  
**F1636** Dmitry Turevsky  
C+ (Russia)



HS#4 (4+7)  
b) bSe8→b8

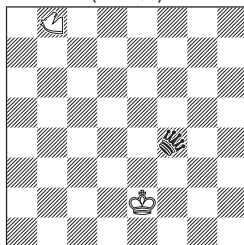
a) 1.Bd5 Sf6 2.Ra4 Sd7+ 3.Bc3 Sb6  
4.Ra5+ Rxa5#  
b) 1.Be8 Sa6 2.Bc3 Sc7+ 3.Ra4 Sd5  
4.Bd4+ Bxd4#

Authors: Two white pinned pieces  
are indirectly unpinned and then  
pinned again exchanging their pin  
lines.

Sunouchi: I cautiously reconfirmed  
discovered checks and pin-mates.

Crisan: 一目で好きになった作品。わた  
しもこのテーマを手掛けたことがあるが  
(G38 from FIDE Album 2019-2021)、  
本作者は優れた配置を発見した。

**F1637** Sébastien Luce  
C+ (France)



HS#6 2 Sols (2+1)  
Circe  
Zebra b8  
Attractor Queen f4

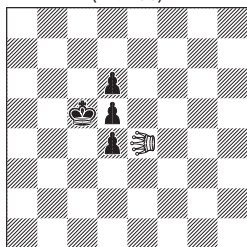
1.Kd3 AQe5 2.Kc4 AQd6 3.Zd5  
AQxd5(Zd8)+ 4.Kb4 AQd7 5.Zb5  
AQc6 6.Ka5 AQxb5(Zb8)#  
1.Ke1 AQd6 2.Zd5 AQxd5(Zd8)  
3.Zb5 AQxb5(Zb8) 4.Zd5 AQc5 5.Zf2  
AQe3+ 6.Kf1 AQxf2(Zf8)#

Author: The Zebra leads Attractor  
Queen to destination, the forced

capture of Zebra in b5 (with white King in a5) or f2 (with white King in f1). Model mates in chameleon echo 90°. The Attractor Queen cannot be captured at the end because of the Circe rebirth on b1 or f1.

Crisan: 5...AQd4 の dual があると則内氏の指摘。作者の確認待ち。

**F1638** Sébastien Luce  
C+ (France)



H=6 (1+4)  
b) Rotate 270°  
Circe Plus  
Locust e4

a) 1. Kb5 Le4-e5xc5[d7]+ 2.dxc5[Lc8] Lxc5-c4[c7]+ 3.Kb6 Lxc7-c8[c7] 4.Kc5 Lxd7-e6[d7] 5.d5 Lxd5-c4[d7]+ 6.Kd6 Lxd4-e4=  
b) 1.Ke7 Le4xf5-g6[f7] 2.f5 Lxf5-e4[f7] 3.d4 Ld5xd4-d3[d7] 4.d6 Lxd6-d7 5.Kf6 Lxf7-g7[f7] 6.Ke6 Lxe5-d4[e7]=

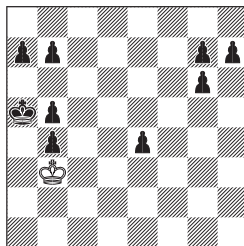
Author: Locust Rundlauf in a) and chameleon vertical mirror echo with a surprising rotation twin. It seems the first example in Winchloe.

In the final picture, white Locust pins "by the back" c7 pawn and controls c5 in a), pins f7 pawn and

controls f5 in b) with its indirect action on the central square.

Crisan: 正解者なし。

Slobodan Saletic, Udo Marks  
**F1639** (Serbia & Germany)  
C+ Version of F1013



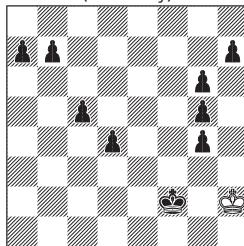
H=10.5 (1+9)

1...Kc2 2.h5 Kd2 3.h4 Ke3 4.h3 Kf4 5.g5+ Kxg5 6.g6 Kxg6 7.h2 Kf5 8.h1=R Kxe4 9.Rh6 Kd3 10.Ra6 Kc2 11.b6 Kb3=

Sunouchi: Promoting on the h-file makes it in time unbelievably.

Crisan: 9 手で白 K が c2-d2-e3-f4-g5-g6-f5-e4-d3-c2 と Rundlauf するのは驚き。

**F1640** Udo Marks  
C+ (Germany)



H=11.5 (1+9)

1...Kh1 2.Kg3 Kg1 3.a5 Kf1 4.a4

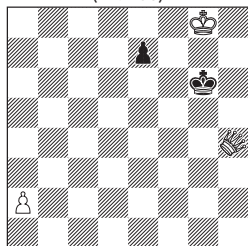
Ke2 5.a3 Kd3 6.a2 Kc4 7.b5+ Kxb5  
 8.a1=R K:c5  
 9.Rh1 Kxd4 10.Rh6 Ke3 11.Kh4 Kf2  
 12.Kh5 Kg3=

Author: Kindergarten-Problem, Rex  
 Solus Excelsior, Under-Promoted.

Sunouchi: Same as F1639,  
 promoting on the a-file leads to the  
 solution.

Crisan: 白 K が異なる 12 マスを通るの  
 は、Kindergarten 問題としてタスクか  
 もしれない。

**F1641** Sébastien Luce  
 C+ (France)



H==7 (3+2)  
 Attractor Queen h4

1.e5 a4 2.e4 a5 3.e3 a6 4.e2 a7  
 5.e1=AQ a8=AQ 6.AQg3 AQB8  
 7.AQe5 AQf8==

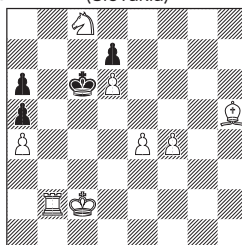
Author: "Excelsior rhymes with  
 ... Attractor Queen!" Here we see  
 a double Excelsior to this piece  
 in tanagra to reach ...a double  
 stalemate. Also black pawn Rundlauf  
 e5 to e5. The three Queens  
 participate in the final picture: f6,  
 f5, g5 h5, h6 are prohibited to black

King by the two white AQ. h8 for  
 white King is controlled by AQe5.

Sunouchi: Finally immovable  
 attractor-queens complete  
 stalemates.

Crisan: 作品の内容をみごとに表した短  
 評。

**F1642** Ľuboš Kekely  
 C+ (Slovakia)



SH=26 (8+4)

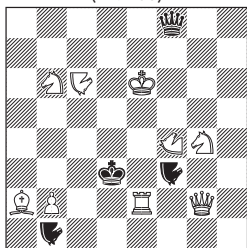
1.Kc5 2.Kd4 3.Ke3 4.Kxf4 5.Kg5  
 6.Kxh5 7.Kg6 8.Kf7 9.Ke8 10.Kd8  
 11.Kxc8 12.Kd8 13.Ke8 14.Kf7  
 15.Ke6 16.Kxd6 17.Kc5 18.d5  
 19.dxe4 20.e3 21.e2 22.e1=R  
 23.Re3 24.Rb3 25.Kb4 26.Kxa4  
 Rxb3=

Author: Meredith. Long walk of black  
 king. Excelsior. Minor promotion.

Sunouchi: The goal is near the start,  
 but his road has many histories.

Crisan: 黒 Pa6 はいきなりの 1... Rb5=  
 を防いだもの。誰か、この魅力的な配置  
 に set play を加えることはできません  
 か？

**F1643** Sébastien Luce  
C+ (France)



SS#5 2 Sols (9+4)  
Zebra f4  
Nightrider c6 b1 f3

1.Zc2 2.Bxb1 3.Kd5 4.Re6 5.Ze5+  
Nxb1#

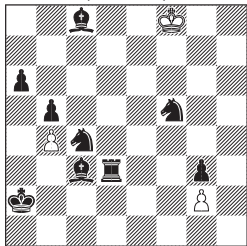
1.Se3 2.Qxf3 3.Ke5 4.Be6 5.Sed5+  
Nxf3#

Author: Zilahi with the creation of  
white battery on the diagonal b1-h7  
or the third rank. Selfblocks in d5-d6  
or e5-d6.

Sunouchi: Fairy pieces brighten up  
thrilling moves including Zilahi.

Crisan: 白の個々の手は、次の手を可能  
にしている。この効果が、全体的な芸術  
性を高めている。

**F1644** Ľuboš Kekely  
C+ (Slovakia)



SS#28 (3+9)  
Bicolores

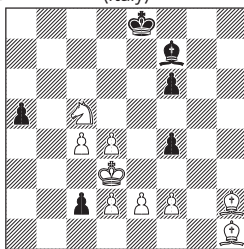
1.Kf7 2.Kg6 3.Kg5 4.Kf4 5.Ke4  
6.Kxd3 and up 7.Ke4 8.Kd5 9.Kc6  
10.Kc7 11.Kxc8 and down 12.Kb7  
13.Kxa6 14.Kxb5 15.Ka4 16.b5  
17.b6 18.b7 19.b8=Q 20.Qxg3  
21.Qxc3 22.g4 23.gxf5 24.f6 25.f7  
26.f8=Q 27.Qfc5 28.Qb2+ Sxb2#

Author: Meredith. Walk of white king  
with returns.

Sunouchi: I' m not sure what is  
illegal in the condition of Bicolores.

Crisan: 実戦初形は Bicolores ルール  
の下では illegal。

**F1645** Alberto Armeni  
C+ (Italy)



PSH#5 (9+6)  
Circe

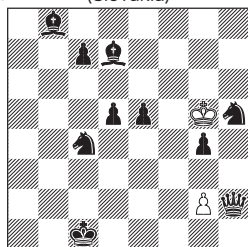
1.c1=R 2.Rxc4[+c2] 3.Bg6+ e4  
4.fxe3 ep.[+e2]+ Kxc4[+Ra8] 5.0-  
0-0 Bb7#

Author: Valladao.

Sunouchi: It' s a wonderful  
composition to achieve Valladao  
smoothly.

Crisan: 作者の創造性には感心するの  
み。脱帽！

**F1646** Ľuboš Kekely  
C+ (Slovakia)



PSS=27 (2+10)  
Bicolores

1.Kg6 2.Kf7 3.Ke7 4.Kxd7 and  
back 5.Ke6 6.Kf5 7.Kxg4 and back  
again 8.Kf5 9.Ke6 10.Kxd5 11.Kxc4  
12.Kb3 13.Ka2 14.Ka1 15.g4  
16.gxh5 17.h6 18.h7 19.h8=Q  
20.Qh6+ Kd1 21.Kb1 22.Qh5+  
Ke1 23.Kc1 24.Qxe5+ Kf1 25.Kd1  
26.Qxc7 27.Qf4+ Bxf4=

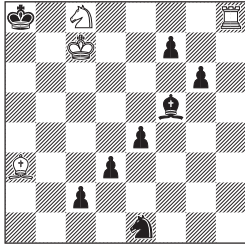
Crisan: 正解者なし。長い(長すぎる?)  
序奏の後で、双方のKが1段目をシス  
デマティックな動きをするところがおも  
しろい。

今回は解答者わずか2名でしたが、熱  
心な短評で救われました。90点満点で  
70点を獲得した則内誠一郎さんが悠々  
と1位。おめでとうございます。この難  
しい問題セットで20点を取った及川弘  
典さんも優れた解図力を発揮しました。





R399 N.Shankar Ram  
(India)



-2 & #1 (4+8)  
Pacific Retractor

## レトロ

### 担当者

松崎直樹

ジャッジ 2025-2026  
Jorge Lois (Argentina)

☆今回は Retractor 1 作です。オーソドックスなルールなので、いつもはアンチキルケで敬遠しているという方もぜひ解いてみてください。

R395: 白黒白の順に戻す間に駒取りはなく、黒は抵抗するというルールです。黒の応手を見落とさないように注意してください。

皆様の解答・短評をお待ちしております。

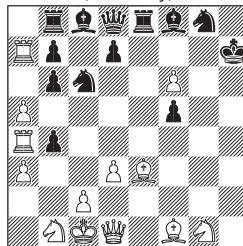
Pacific Retractor -n&#1: 白から戻し始めて、n手以内で、白が黒を1手でメイトにできるような局面を作るのが目的。駒取りを戻す着手を禁じる。黒は抵抗する。

作品の投稿や解答または短評は、次の Google Form を使ってお送りください。

<https://forms.gle/MxGZRuQade6icz5W7>

### Issue 110

R392 Silvio Baier  
C+ (Germany)



Proof Game 27.5 (13+13)

1. e4 f5 2. e5 Sf6 3. exf6 e5 4. h4 e4 5. h5 e3 6. h6 e2 7. hxg7 h5 8. Rh3 h4 9. Ra3 h3 10. g8=Q h2 11. Qb3 h1=S 12. Qb6 axb6 13. Ra7 Sxf2 14. a4 Sg4 15. a5 Sh6 16. Ra4 Ba3 17. d3 0-0 18. Be3 Re8 19. Kd2 e1=B+ 20. Kc1 Beb4 21. g4 Bf8 22. g5 c5 23. g6 Sc6 24. g7 Kh7

25. g8=R Rb8 26. Rg4 Sg8 27. Rb4  
cxb4 28. bxa3

白はa3とf6で黒駒を、黒はb6とb4で白駒を取っており、この他に白と黒のPが1つずつ動かずに取られている。bRe8は、e1=R?の後Re1-e8?だとwBe3・wKと干渉するため、h8からキャスリング後にf8から来たことになる。元のbBとbSが取られて、bPがh1とe1で成った後初形位置に戻る。bPh7は直進するので、g-, h-のwPはg8で成っており、成駒が取られる。白のCeriani-Frolkin 2つと黒のPronkin 2つを合わせて mixed AUW となっている。

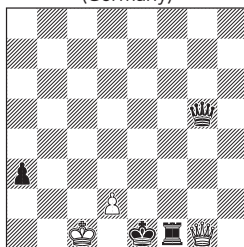
Author: CF(Q,R) & PR(b,s)

☆前号の作品と同様にCF2つとPR2つの組み合わせですが、前作が白単独なのに対して、本作は白と黒の組み合わせです。このテーマについては下記の記事をご参照ください。

Silvio Baier (2022–2023), *Orthodoxe Beweispartien mit je zwei Ceriani-Frolkin und Pronkins*, Die Schwalbe (Heft 318-2, 319, 320).

Silvio Baier, Nicolas Dupont and Roberto Osorio (2011), *Future Proof Games – A challenging new concept Part one: Classical FPGs*, Die Schwalbe (Heft 250A). URL: [https://dieschwalbe.de/hefte/schwalbe\\_250A\\_August\\_2011.pdf](https://dieschwalbe.de/hefte/schwalbe_250A_August_2011.pdf)

# **R393** Andreas Thoma (Germany)

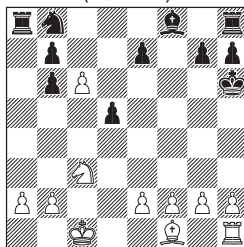


-2 & S#1 (3+4)  
Proca Retractor  
AntiCirce Cheylan

- 1. e2xSd3(Pd2) Sf4-d3++
- 2. f3xBc4(Pe2) & 1. Qe3+ Se2#

まずSとQのダブルチェックを戻してから、bBe4をb1に利かせてwQでチェックする。bSが動くと、bQg5のためwQはbSを取れず詰みとなる。  
則 内 : Exciting battle in few moves  
for a counter-punch of pin-mate

# **R394** Paul Răican (Romania)



PSH-dia 19 (11+11)  
Take & Make

- 1. Sf3 2. Se5 3. Sxd7-d6+ Kd7 4. Sc4 5. Sb6+ Kc6 6. c4 7. Qb3 8. Qf3+ Qd5 9. cxd5-d8=R+ axb6-d5 10. Qf6+ Sxf6-c3 11. dxc3-b5+ Kb6

12. Be3+ c5 13. bxc6 e.p. -c5+ Kb5  
 14. Sc3+ Kc4 15. 0-0-0 16. Rd4+  
 Kxd4-h4 17. Bg5+ Kxg5-h6 18.  
 Rxc8-e6+ fxe6-b6 19. c6

Author: Valladolid with promoted  
 piece captured

☆作意はキャスリング・アンパッサン・  
 プロモーションの3つを組み合わせた  
 Valladolid ですが、残念ながら潰れて  
 ありました。粗検申し訳ありません。作  
 者より修正図をいただきました。

Cook! (by Dmitrij Baibikov)

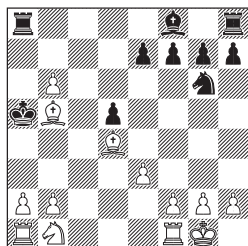
1. Sf3 2. Se5 3. Sxf7-f6+ Kf7 4.  
 Sxg8-h6+ Ke6 5. c4 6. Qa4 7.  
 Qxa7-a6+ Ke5 8. Qe6+ dxe6-b6  
 9. d4+ Qxd4-d5 10. Sc3 11. Sg4+  
 Bxg4-e3 12. Bxe3-f4+ Kxf4-h6 13.  
 Rd1 14. Rxd5-d6+ cxd6-d5 15. c5  
 16. c6 17. Kd1 18. Kc1

10. Qf6+ Sxf6-c3 11. dxc3-b5+ Kb6  
 12. Be3+ c5 13. bxc6 e.p. -c5+ Ka6  
 14. Bd4 15. e3+ b5 16. cxb6 e.p.  
 -b5+ Ka5 17. Rxc8-a6+ Sxa6-g6 18.  
 b6 19. Bb5 20. 0-0

- Dmitrij Baibikov 5 + 5 + 5 = 15
- 則内誠一郎 0 + 5 + 0 = 5

R394c

Paul Răican



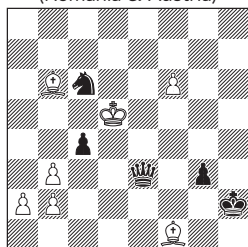
PSH-dia 20  
 Take & Make

1. Sf3 2. Se5 3. Sxd7-d6+ Kd7 4.  
 Sc4 5. Sb6+ Kc6 6. c4 7. Qb3 8.  
 Qf3+ Qd5 9. cxd5-d8=R+ axb6-d5

## Correction of R361

from PP104/2023

**R361c**  
Vlaicu Crisan  
Klaus Wenda  
(Romania & Austria)



-22 & #1 (7+5)  
Proca Retractor  
AntiCirce

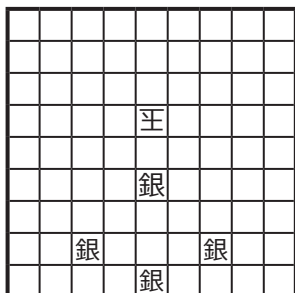
- 1.Kd4-d5 Sd8-c6+
- 2.Kd3-d4 c5-c4+
- 3.Bf3xBe2(>Bf1) Bd1-e2+
- 4.Ke2-d3 Bc2-d1+
- 5.Pb5xPa5(>Pa2) ep. a7-a5 (1st)
- 6.Kd3-e2 Bd1-c2+
- 7.Ke2-d3 Bc2-d1+ (2nd)
- 8.Kd3-e2 Bd1-c2+
- 9.Ke2-d3 Pd2-d1=B+ (forced,
- 9...Bc2-d1??)
- 10.Ke1-e2 Pd3-d2+
- 11.Ke8xRf8(>Ke1) Rf7-f8+
- 12.Kd7-e8 Rf8-f7+
- 13.Pa6xRb7(>Pb2) (1st) Rb8-b7+
- 14.Kc8-d7 Rb7-b8+
- 15.Kd7-c8 (2nd) Rb8-b7+
- 16.Kc8-d7 Rb7-b8+
- 17.Kd7-c8 (3rd) Pc7-c5+ (forced
- due to Pb5xPc5(>Pc2) ep.
- possibility; 1st)
- 18.Ke8-d7 Rf7-f8+
- 19.Kd7-e8 Rf8-f7+ (2nd)

- 20.Ke8-d7 Rf7-f8+
- 21.Kd7-e8 Qe7-e3+ (forced,
- 21...Rf8-f7??)
- 22.Bg2-f3 & 1.Bg1#

Three draw pendulums, two started by Black and one started by White, in a Meredith setting:

- The first draw pendulum serves for putting the wK on its rebirth square, but closes the wBb6 diagonal (AntiZielElement)
- The second draw pendulum, started by White, removes the obstacle (bPc5) and provides the necessary tempo for the third draw pendulum. This draw pendulum is based on a virtual en passant possibility
- The third draw pendulum decoys the bQe3 and opens the wBb6 diagonal for the mate

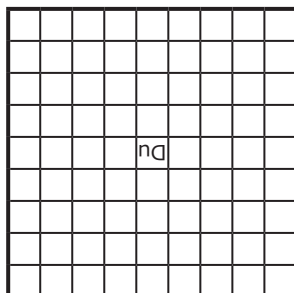
U386 出口信男



▲なし

協力詰 11 手 2 解

U387 駒井めい



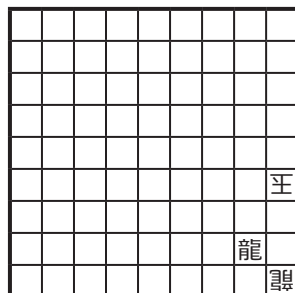
▲ Ze

共存詰 1 手

Du=Dummy 王

Ze=Zero

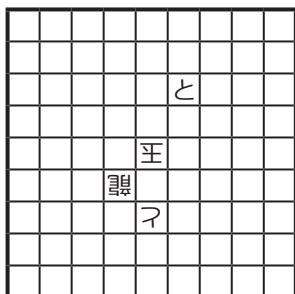
U388 駒井めい



▲香香

共存詰 3 手

U389 占魚亭

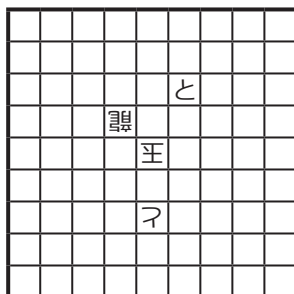


▲ Mo

Koko- 全 Andernach 協力詰  
7 手

Mo=Moose

U390 占魚亭

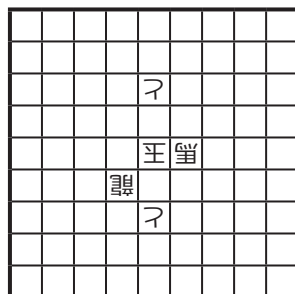


▲ Ea

Koko- 全 Andernach 協力詰  
7 手

Ea=Eagle

U391 占魚亭



▲ Sp

Koko- 全 Andernach 協力詰  
7 手

Sp=Sparrow

U392 橋本 哲

香		銀	金	王	金	銀	圭	香
と	歩	圭					角	
香	歩	歩		圭	歩	歩	歩	
	龍			歩				
		歩						
	歩	角	歩	歩	歩	歩	歩	歩
				玉				
		銀	金		金	銀	桂	香

▲歩歩 △歩

ブルーフゲーム 33手

U393 橋本 哲

香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香
歩	歩	歩	歩	桂	歩	歩	歩	歩
				王				
		歩						
歩	歩				歩	歩	歩	歩
龍	角					飛		
香		銀	金	玉	金	銀	桂	香

▲歩歩歩 △なし

ブルーフゲーム 23手

U394 上田吉一

馬	銀	銀						
龍	と	◆		玉				
		◆						
	◆	王	王					
		◆		歩	馬			
				桂				
		桂						

▲なし △なし

協力自玉詰 146手

91馬、81銀は不滅駒

◆ = Pyramid

## 将棋

### 担当者

泉 正隆

ジャッジ 2024-2026

太刀岡甫

★今号は9作の出題です。

★ U386 は出口信男さんの協力詰。2解ですので、11手で詰ます手順を2つお答えください。

★ U387、U388 は駒井めいさんの作品。「共存」は駒井めいさんが考案のフェアリー条件で、1つのマスに複数の駒が共存できるルールです。ルールを理解できればU387とU388はどちらも易しいかと思います。駒井めいさんによる共存の説明と例題がWFP202号(pp.87-88)に掲載されていますので、併せてご覧ください。

<https://tsume-springs.com/web-fairy-paradise/WFP202.pdf>

ちなみに、私も共存の例題を作ったことがあります。よろしければご覧ください。  
<https://tsume-springs.com/?p=1908>

★ U389～U391 は占魚亭さんの連作です。ルールと手数は共通で、配置や使用しているフェアリー駒が異なります。Kokoと全Andernachは比較的理解が大変なルールかと思います。例題を1作ずつ用意しましたので、必要に応じてご確認ください。

★ U392、U393 は橋本哲さんの将棋ブルーフゲームです。将棋の実戦初形から指定の手数で指定局面に到達する手順を

求めてください。110号で出題した橋本哲さんのブルーフゲーム(U378)の解答がちょうど本号で発表されます。こちらもぜひご覧ください。

★ U394 は上田吉一さんの協力自玉詰作品。91馬と81銀だけが不滅駒の設定ですのでご注意ください。

★以下の基準で解答を採点します：

- ・1題5点満点とする。
- ・不正解の場合は0～3点の途中点を与える。途中点は、初手から4手が一致するごとに1点を与え、最高でも3点とする。手数が3手以下の作品の場合、途中点は0点。
- ・誤記は極力救済する方針とし、点数は個別に判断する。

★随時作品を募集しております。フェアリー詰将棋全般や複数解・ツインの普通詰将棋、将棋パズル系の作品を受け付けています。Problem ParadiseのホームページのSubmission Formからお送りください。

★作品投稿や解答の受付状況は下記でご確認いただけます。必要に応じてご覧ください。

[https://tsume-springs.com/?page\\_id=77](https://tsume-springs.com/?page_id=77)

★特に記載のない限り、受方の持駒にフェアリー駒はなく、通常の将棋駒セットの残り全部です。

★1題だけでも構いませんので、ぜひ多くの方々の解答参加をお待ちしております！

【協力詰】

双方協力して最短手数で受方の玉を詰ま

す。ただし無駄合の概念はなく、すべての合駒が有効。

#### 【協力自玉詰】

双方協力して最短手数で攻方の玉を詰ます。ただし無駄合の概念はなく、すべての合駒が有効。

#### 【協力自玉スタイルメイト】

双方協力して最短手数で攻方をスタイルメイト（王手は掛かっていないが合法手のない状態）にする。ただし、単玉の場合のスタイルメイトとは単に合法手がない状態。

#### 【詰将棋】

普通詰。つまり、受方がどのように応じても詰むように攻方は着手し、受方はなるべく詰まないように応じる。複合ルールの場合、「安南詰」のように「……詰」というルール名になる。

#### 【Koko】

着手は、その周りの8マスに何らかの駒が存在するような地点へのみ可能（孤立禁）。王手にもこの条件は適用され、玉を取ったときにその駒が孤立する場合は王手ではない。

#### 【全 Andernach】

玉以外の駒は、盤上の移動を行うとその場で相手の駒になる。

#### 【補足】

- ・所属の変更までを一手とみなす。
- ・所属の変更は成生の選択の後に行われる。成生は手番側が選択する。
- ・二歩が生じる場合は通常の着手になる。

#### 【非王手】

最終手（目的を達成できるとき）を除き、双方は王手を掛けてはいけない。

#### 【Take&Make】

駒を取った後、取られた駒の性能で駒を取らずにさらに移動する。さらなる移動ができない場合は駒取りもできない。王手や詰め等の定義は通常通り。

#### 【補足】

- ・王手や詰め等の定義もこれを前提とする場合は K-Take&Make と呼ぶ。
- ・駒取りと移動をあわせて一手とみなす。
- ・移動先は駒を取った後の状態で選ぶ。
- ・成れる生駒での駒取り時、現在位置・駒取り地点・移動先のいずれかが手番側から見て可成地域の場合、成生を選択できる。

#### 【共存】

1つのマスに敵味方関係なく何枚でも重なって共存できる。

#### 【補足】

- ・走り駒（飛角香など）は、他の駒が1枚以上いるマスを飛び越えて行けない。
- ・他の駒がいるマスに、駒台から駒を打って共存させる着手は可。
- ・駒取りは通常通り、盤上の駒を移動させた先に敵駒がいる場合に起こる。
- ・敵駒が1枚以上いるマスに駒を移動させる場合、それぞれの敵駒に対して共存か取りのどちらかを選択する。

#### 【Zero (Ze)】

(0,0)-Leaper。つまり、現在位置に移動する駒。



### 【Dummy (Du)】

利きを持たず、自分では動かない駒。

#### 【補足】

- ・ルールによっては受動的に動かされたり、利きを持ったりする場合はある
- ・行き所のない駒の禁則の対象外である

### 【Moose (Mo)】

フェアリーチェスの Moose。Grasshopper の変種で、Queen の利きの方向にある駒に到達した後、進行方向に対し 45°曲がった場所に着地する。

### 【Eagle (Ea)】

フェアリーチェスの Eagle。Grasshopper の変種で、Queen の利きの方向にある駒に到達した後、進行方向に対し 90°曲がった場所に着地する。

### 【Sparrow (Sp)】

フェアリーチェスの Sparrow。Grasshopper の変種で、Queen の利きの方向にある駒に到達した後、進行方向に対し 135°曲がった場所に着地する。

< Moose、Eagle、Sparrow の利き >

○		○						
	歩		○	歩	○		歩	
						○		○
	Mo			Ea			Sp	

### 【Knight (騎)】

(1,2)-Leaper。つまり、1 対 2 の八方向に跳ぶ駒。

### 【Imitator (■またはI)】

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に到着したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

#### 【補足】

- ・駒を打ったときは動かない
- ・Imitator は動かす駒と同時に動く
- ・Imitator は攻方・受方のどちらにも所属しない
- ・利きの概念を持たず、性能変化ルールでも性能変化の対象にならない

### 【Pyramid (◆)】

着手不可・通過不可の領域を表す。跳び越すことは可能。ホッパー系の駒のジャンプ台になる。

### 【石 (●)】

着手不可・通過不可の領域を表す。跳び越すことは可能。ホッパー系の駒のジャンプ台にならない。

### 【駒詰】

玉が指定駒の性能になる。ルール名は例えば「角王」のように「駒名＋王」で表す。

### 【不滅駒】

取られることのない駒。不滅性を持つ駒は例えば「不滅歩」のように「不滅＋駒名」で表す。

### 【中立駒】

どちらの手番でも動かせる駒。

#### 【補足】

- ・中立駒は横向きに表記するか、「n 飛」のように n を付けて表す。
- ・盤上の中立駒は現手番の駒として動く(利きが上下非対称の場合要注意)。
- ・自分の持駒にある中立駒を打つことはできるが、相手の持駒の中立駒は打てない。
- ・現手番の駒として成れる場合のみ成れる。
- ・中立駒が現手番の駒を取ることはできないが、敵駒や中立駒は取れる。
- ・中立駒は取られても中立性を失わない。
- ・中立駒は行き所のない駒にならない。
- ・中立歩を打って詰ます着手は禁手(打歩詰)。
- ・すでに中立歩や通常の歩がある筋に、中立歩や通常の歩を打つ着手は禁手(二歩)。
- ・中立駒であっても自玉への王手は禁手。自玉への王手になっているかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

### 【受先】

受方から指し始める。

### 【n 解】

解が複数あり、n 個の解を求める出題形式。

### 【ツイン】

問題図を a) とし、b)、c) ……を指定された設定でそれぞれ解く出題形式。

### 【ブルーゲーム】

実戦初形から出題図に至る手順を求める出題形式。

### 例題

#### 例題 1 泉 正隆

						馬	王
							糸

#### ▲桂

Koko 詰 3 手

#### 例題 2 泉 正隆

							王
					飛	銀	王
						糸	
							銀

#### ▲歩 △なし

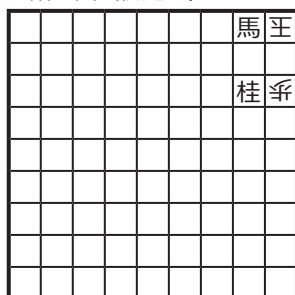
全 Andernach 協力詰 3 手

### 例題の解答

#### 例題 1

23 桂、13 歩、21 馬 迄 3 手。

<詰上図（例題 1）>

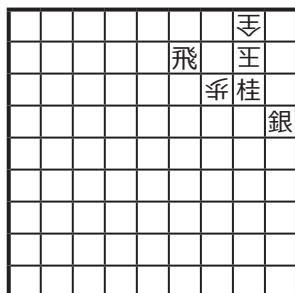


普通の詰将棋なら 23 桂と打って詰みですが、Koko では 13 歩という受けがあります。玉を取る 11 桂成が、Koko の孤立禁に抵触するため指せなくなっています。しかし、21 馬と寄って詰み。この手は馬で王手を掛けているわけではなく、桂の王手を有効化しています。孤立禁のため、21 馬を玉で取ることはできません。12 玉や 22 玉は同馬で玉を取られてしまうため指せません。なお、初形で 31 馬が孤立していますが、特に記載のない限りは初形に合法性は課さないとします。

例題 2

23 歩、同桂転、21 銀成転 迄 3 手。

<詰上図（例題 2）>

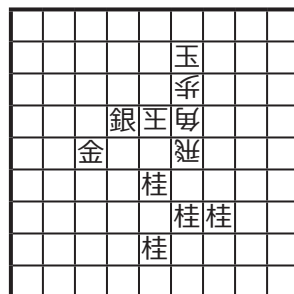


▲なし △歩

受方持駒なしの問題設定です。初手 23 歩は持駒を打つ着手なので所属の変更は起こりません。この歩を桂で取ると、取った後に 23 桂は攻方の駒に変わります。このやり取りで 11 と 31 の地点に攻方の駒を利かすことができました。21 銀成転の開王手で詰みとなります。受方の持駒は歩のみですが、歩合は二歩のためできません。21 の成銀で移動合をする 32 全転は、自玉に王手にさらすため指せません。最終手 21 銀成転に代えて 21 銀生転は、32 銀転の移動合が可能で詰んでいませんでした。

Issue 110 (U372-379)

U372 島田春瑠



▲なし

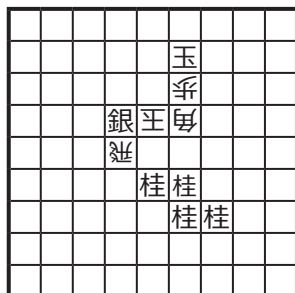
協力詰 3 手 3 解

65 金、同飛、46 桂 迄 3 手。

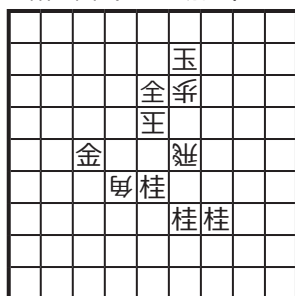
66 桂、同角、53 銀成 迄 3 手。

55 銀、同飛、64 金 迄 3 手。

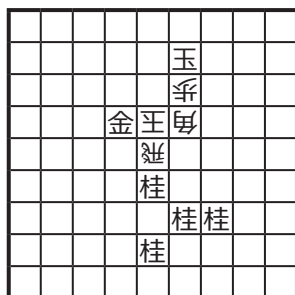
<詰上図 (U372 解1)>



<詰上図 (U372 解2)>



<詰上図 (U372 解3)>



及川 : Cyclic Zilahi.

則内: さあ将棋のお方もサイクルジラヒ。

双玉はチェスの味。

中嶋: 初手と3手目の駒が cyclic な感じ。

須川 : 全て普通詰将棋のような捨駒が入るので気持ちよいですね

吉田 : 協力でない”かしこ解”1) が含

まれるのが惜しい。

高坂 : AB/BC/CA の3解。2手目が全部同飛になるか、あるいは同角/同飛/同玉となれば更に良かった(おそらく作者も考えたことでしょう)。

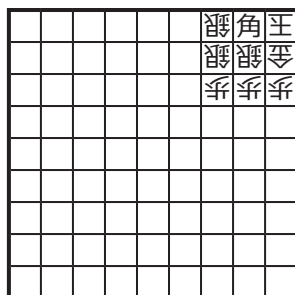
★取られる駒と詰める駒の役割交換を Zilahi といいます。本作は、金を捨てて桂で詰める/桂を捨てて銀で詰める/銀を捨てて金で詰める という循環構造になっています。このような Zilahi を Cyclic Zilahi といいます。

★私も2手目の統一性のなさが少し気になりましたが、改良はかなり大変そうです。

★協力詰ではなく普通詰として作る手もありそうです。例えば以下に作例があります(第9回三手詰祭 第21問)。

<https://kazemidori.fool.jp/?p=24538>

U373 出口信男



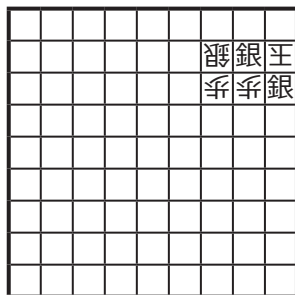
▲金

協力詰 19手

12 角成、同玉、11 金、同玉、  
21 金、12 玉、22 金、同玉、  
11 銀、21 玉、22 銀生、12 玉、

13 銀生、21 玉、22 歩、同銀、  
同銀生、12 玉、13 銀打 迄 19 手。

<詰上図 (U373) >



則内：密集形、すらすら、捨駒、銀生と  
まさしく娯楽の宝箱。

及川：3×3 から 2×3 になるのが狙  
い？

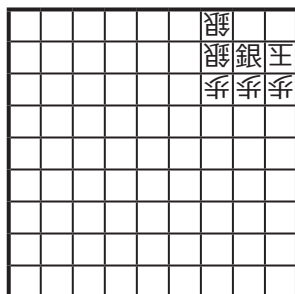
中嶋：13 歩を使って銀を入手するん  
で、なるほど。

吉田：狭い空間での攻防。歩入手が鍵。

須川：32 銀を取りに行ったらダメなん  
ですね。やられましたわ

★手掛かりがなくならないように王手を  
続けるとなると、12 手目 12 玉までは  
すらすら進むと思います。

<途中図 (U373) >

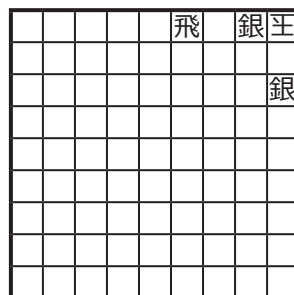


▲なし

★ここから 21 銀生、22 玉、32 銀成の  
ように銀を入手しようとする、うまく  
詰みの形を作れずに手数超過となり  
ます。上図では 13 銀生と歩を取り、21  
玉に 22 歩と打って 31 銀を取りに行く  
のがうまい手段です。

★初形も詰上りも密集形ですね。

U374 駒井めい



▲なし

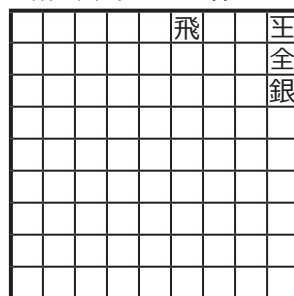
Take&Make 詰 1 手

b) 13 銀→23

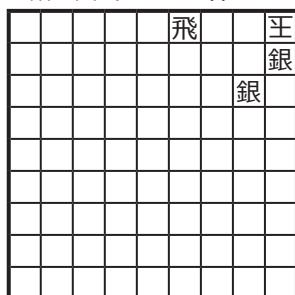
a) 12 銀引成 迄 1 手。

b) 12 銀引生 迄 1 手。

<詰上図 (U374 a) >



<詰上図 (U374 b)) >



作者：配置の違いで銀の成・不成が変わります。

及川：同じ銀による同じマスへの成生、その心は銀の腹への逃亡阻止。Take & Make 入門にぴったり。

則内：確かに手解きなして成生の違いのわかる人は少なそう。

吉田：利きと詰みの確認に混乱しそう。

高坂：ルールの細部が分からなくて少し悩んだ。具体的には ①駒取りしたあと「取られた側の駒として」動くこと ②この図だと 12 同玉という手自体は合法だということ ③成銀を取っても銀の動きになること などを書いてくれないと、解答に困ります（もし、どこかで書いて下さっていたのならスミマセン）。作品自体は、ルール説明の例題として最適だと思います。

★ a) で 12 銀引生は、同玉 / 23 玉が可能で詰んでいません。一方、12 銀引成とすれば詰み。成銀を玉で取るためには、成銀を取った後に駒を取らない追加の移動ができなければいけません。攻方 12 全を取るので移動先の候補は 11、21、22、13 ですが、11、21、22 には攻方の駒が利いており、13 は埋まっている

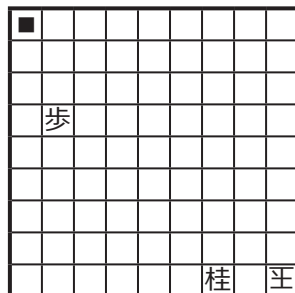
ので追加の移動ができません。したがって 12 全と取ることができず、詰みとなります。

★ b) で 12 銀引成は、同玉 / 13 玉が可能で詰んでいません。一方、12 銀引生とすれば詰み。玉が 12 銀を取った後の移動先の候補は 11、21、23 ですが、11 と 21 には 41 飛が利いており、23 は埋まっているので追加の移動ができません。

★銀は面白い駒だとつくづく思います。

★ Take&Make のルールの詳細が分かるように、出題時に例題を 2 題用意していましたが、ルールの説明文自体が分かりにくいので、修正案を考えたいと思います。

U375 原亜津夫



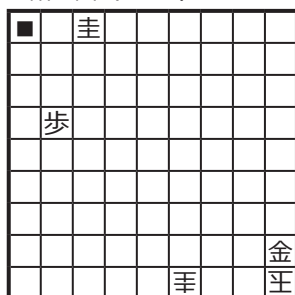
▲金 △桂

詰将棋 10 手 (受先)

■ = Imitator

81 桂、18 金、  
73 桂 [I83]、47 桂 [I91]、  
65 桂 [I83]、55 桂 [I91]、  
57 桂生 [I83]、63 桂生 [I91]、  
49 桂成 [I83]、71 桂成 [I91] 迄 10 手。

<詰上図 (U375) >



▲なし △なし

作者：双方桂の連続4段跳ねです。

須川：Imitatorは難しいと思っていますが、こんなに易く楽しめる趣向があるのはうれしいですね

吉田：双方桂4段跳ねの攻防。

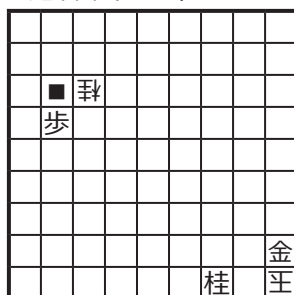
及川：双方の桂の4段跳ね！簡潔な構図で明快な手順を実現していて素晴らしい。

則内：相互に御返杯とイミテーターを動かし合うのが面白い。

★初形ではImitatorが対角の隅にいますので、受方玉は一切動けません。もし攻方の手番なら、29金や18金と打って詰みとなります。受方は持駒の桂を使ってこの脅威から逃れる方法を考えます。例えば92桂と打っておけば18金が王手ではなくなります。しかし、29金と打たれて詰みを免れません。

★初手は81桂。29金が王手ではないので攻方は18金と打つしかありません。ここで73桂[I83]と跳ねれば、74歩のおかげで王手を解除できています。

<途中図 (U375) >

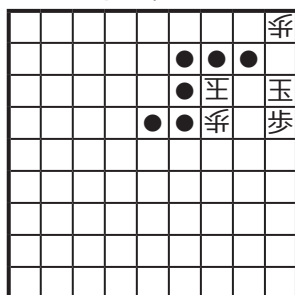


▲なし △なし

★攻方は47桂[I91]で隅にImitatorを移動させ、受方玉の移動を制限しつつ18金の王手を有効化します。受方は65桂[I83]でImitatorを再度84歩の前に移動させて王手を外し、攻方は55桂[I91]で対抗します。さらに57桂生[I83]、63桂生[I91]と進みますが、このやり取りは永遠には続きません。盤は有限なので、次は49桂成[I83]と成らざるを得ません。そのため、71桂成[I91]に対してImitatorを83に運ぶ手段がなく詰みとなります。Imitatorを使った楽しい作品でした。

★なお、出題時の図面に誤りがありました(19玉が攻方の駒になっていた)。作者の原さんと解答者の皆さまに改めてお詫び申し上げます。

U376 原亜津夫



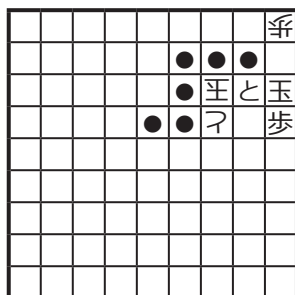
▲歩 △なし

非王手協力詰 13 手

● = 石

29 歩、35 歩、28 歩、36 歩、  
27 歩、37 歩成、26 歩、36 と、  
25 歩、35 と、24 歩、34 と、  
23 歩成 迄 13 手。

<詰上図 (U376)>



▲なし △なし

作者：テーマはテンポを稼ぐための歩の遠打です。

須川：攻方歩の遠打と言いたくなる初手ですね

及川：玉頭が塞がった形で 23 歩成を実現させるための調整。ブロック駒がと金

に変化している所に面白味。

吉田：歩調を合わせるため最下段に打つ。  
則内：非王手詰に戸惑う初心者を親切設計により感動させる。

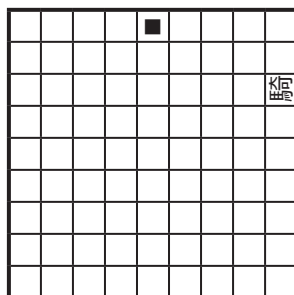
★もし攻方が連続で指せるなら、24 歩と打って 23 歩成とすれば詰み。実際は 24 歩に対してうまい手待ちがないので 35 歩と指すよりなく、34 の地点が空いてしまいます。動かせる攻方駒は限られているので、やはり 23 歩成迄の詰みを目指すしかありません。

★では、34 の地点をどうやって埋めるか。34 歩を 37 まで突いて成り、と金を 34 まで引いてくればよいのです。そのためには受方は 6 手必要です。ちょうど 13 手目に 23 歩成と指すために、初手 29 歩と離して打つ必要があるわけです。

★明快な論理でインパクトのある初手を実現。

U377 占魚亭

「影戻り」



▲金

協力自玉詰 7 手 (受先)

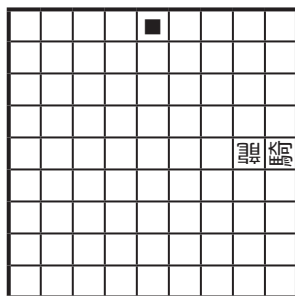
n 騎 = 中立 Knight 王

■ = Imitator



29 飛、23 金、  
34n 騎 [I72]、24 金 [I73]、  
15n 騎 [I54]、25 金 [I55]、  
同飛成 [I51] 迄 7 手。

<詰上図 (U377) >



作者：2025 年 2 月完成。U368 を通常盤でやるとこんな感じになります。別案がいくつかありますが、Imitator がルントラウフする本図を採りました。ヒントを兼ねてタイトルをつけてみました。

須川：解けません

吉田：中立 Knight 王の往復と金引と飛引の攻防でぴったりの影戻り。初見、大駒のダイナミックな動きを予想しましたが見事に裏をかけられました。

及川：自作。初手に大駒を出す素直な手順です。

★金を引く王手に対して中立 Knight が跳ねて逃げ、初手に打った飛車を引き成って詰まします。Imitator を最後に盤端に移動させるためには初手に 29 飛と打っておく必要があります。手順を並べれば理解できますが、これを発見するのは大変だったと思います。Imitator のルントラウフと飛車の大きな動きが魅力的な作品だと思います。

★吉田さんは「34 飛、23 金、25n 騎 [I63]、24 金 [I64]、65 飛、13n 騎 [I52]、33 飛 [I51] 迄 7 手」の解答でした。最終手に対し、25n 騎 [I63] が可能で詰んでいません。

U378 橋本 哲



▲なし △歩

ブルーゲーム 21 手

96 歩、52 飛、97 角、62 玉、  
64 角、同歩、78 金、63 玉、  
88 金、74 玉、98 金、85 玉、  
86 歩、96 玉、87 金、同玉、  
96 香、98 金、同飛、78 角、  
69 金迄 21 手。

作者：シールドを試作してみたもの。シールド駒を元に戻すところまでがセットです。この構図の範囲に限っても他にも考え方はいろいろあり、もう少し複雑なことも考えられるのですが、やりすぎるとうまくいかないし、純度も損ないかねないので、今回はこの辺ということに。

須川：相当考えましたが降参です

及川：降参。手数短縮できるいい案が浮かばず、手も足も出ません。

吉田：後手番の 9 手は見えている。残

りの1手が金打ちとは驚き。

則内：金を利用して誘い込んだ後、金を取り戻して白を切る。

高坂：GWに小林邸にお邪魔した際に解いた作。何故か87金と捨てる手が盲点になって随分と悩まされた。分かってみれば素直な手順なのだが。

松崎：最終手は何か、と考えて69金を使う手順にたどり着きました。96歩を取るにはこれしかないのですね。

★実戦初形から96歩、52飛、97角、62玉、64角、同歩の6手はすらすらと進められると思います。角を受方に渡ししながら後手64歩の配置を作れているので効率が良さそうです。

＜途中図（U378）＞

皇	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	皇
			王	飛			馬	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
		歩						
歩								
	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
							飛	
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香

▲なし △角

★残りは先手が8手、後手が7手の計15手。後手がやるべきことは以下の3点です：

- ① 玉を83に運ぶ
- ② 96歩を取る
- ③ 78角を設置する

少なくとも①には5手、③には1手掛かります。後手玉が83に向かう途中で

96歩を取れば効率がいいですね。96歩には99香が利いているので、玉で96歩を取るためには香の利きを遮っておく必要があります。先手の手数が残っているので、先手の駒を使って99香の利きを遮る方法を考えましょう。

★先手は97桂と跳ねれば1手で99香の利きを遮ることができます。しかし、桂が85に利いてしまうので後手玉が63→74→84→95→96のように遠回りする必要があります。また、97桂を盤上から消す必要もあるので明らかに後手の手数が足りません。

★79銀を使って96歩への紐を外すためには、79銀を88→87→98と動かすことになりますが、そのためには86歩を突いておく必要があります。その結果、85に歩が利いてしまうため後手玉は遠回りが必要となりうまくいきません。

★69金を使って99香の利きを遮るのが正しい方針です。途中図から78金、63玉、88金、74玉、98金、85玉、86歩、96玉と進めます。86歩と突く手を遅らせられるため、後手玉は最短のルートを選ぶことができます。以下87金、同玉で無事後手玉を83に運ぶことができました。96香、98金、同飛で金を回収し、78角に69金と打てば指定局面。大活躍した69金の痕跡を消す幕切れです。

U379 上田吉一

と	と	銀	と	角	と	銀	と
と	歩	飛	歩		歩	飛	歩
と		歩		歩		歩	と
桂							と
金							と
	桂		桂	香	桂	香	銀
		香		馬		金	
		金		王		金	香

▲なし

協力自玉スタイルメイト 76 手

69 金、同玉、58 馬、同玉、  
 48 金、同玉、38 金、同玉、  
 27 銀、同玉、26 と、同玉、  
 25 と、同玉、24 と、同玉、  
 23 銀成、同玉、13 香成、同玉、  
 12 と、同玉、11 と、同玉、  
 21 歩成、同玉、12 飛成、同玉、  
 22 銀成、同玉、34 桂、33 玉、  
 22 桂成、同玉、32 香成、同玉、  
 31 と、同玉、41 歩成、同玉、  
 42 角成、同玉、54 桂、53 玉、  
 42 桂成、同玉、52 香成、同玉、  
 51 と、同玉、61 歩成、同玉、  
 52 飛成、同玉、62 銀成、同玉、  
 74 桂、73 玉、62 桂成、同玉、  
 73 香成、同玉、84 金、同玉、  
 83 と、同玉、93 と、同玉、  
 92 と、同玉、91 と、同玉、  
 81 歩成、同玉、82 桂成、同玉迄 76 手。

<終了図 (U379) >

	王						

須川：桂跳ね〜桂成の消去ブロックの繰  
 り返しが目新しい感じがします

及川：美しさを感じる初形（もちろん  
 手順も！）。桂香を消す手順（21 歩成〜  
 73 香成）が気持ちよかったです。

中嶋：一筆書きなのでどこからは始める  
 かが悩みどころ。

高坂：難しい変化もなく、どんどん駒を  
 捨てていけばよい。途中、趣向手順も出  
 てきて、まるで上田流の無防備煙のよう。  
 楽しめました。

吉田：綺麗に裁ける盤上 1 枚となる無防  
 備煙。

★ 6 段目の桂香には触れずに玉を 11 ま  
 で運んで下図に至ります (24 手目同玉)。

<途中図 (U379) >

と	と	銀	と	角	と	銀	王
と	歩	飛	歩		歩	飛	歩
と		歩		歩		歩	
桂							
金							
	桂		桂	香	桂	香	
		香					

▲なし

★ここからの手順がダイナミックで楽しいですね。21 歩成～12 飛成で一旦玉が離れ、22 銀成で呼び戻して34 桂と跳ねます。33 玉に22 桂成～32 香成で桂香を捌きます。この桂跳～桂成～香成の手順があと2回登場します。

★楽しい趣向作でしたが、駒を盤上に残したままスタイルメイトにする余詰がありました。指摘は吉田直嗣さんです。ご指摘ありがとうございます。

吉田：初形から詰上がりを推定すると、1) 全駒消去の煙か、2) 上辺の駒群を残す型か、いずれもありそうだが手数から前者の煙を選択。ただし、後者 2) 上辺の駒群を残す型で早詰です。上辺に残せる駒が多く、上辺の駒に蓋をする開き王手(23 香不成、83 香不成)に都合の良い“馬”と“香”(合駒で入手)が配置されていました。

(早詰手順の一例)

49 金、同玉、58 馬、39 玉、  
38 金、29 玉、28 金、19 玉、  
18 金、同玉、27 銀、同玉、  
26 と、同玉、25 と、同玉、  
24 と、15 玉、48 馬、37 香、  
同馬、24 玉、26 香、15 玉、  
23 香生、25 玉、15 馬、36 玉、

14 馬、25 香、同馬、46 玉、  
36 馬、56 玉、46 馬、66 玉、  
56 馬、77 玉、88 金、86 玉、  
87 金、95 玉、96 金、同玉、  
78 馬、85 玉、96 馬、84 玉、  
85 香、74 玉、83 香生、64 玉、  
74 馬、53 玉、52 馬、同玉迄 56 手。

<参考図 (U379) >

と	と	銀	と	角	と	銀	と	と
と	歩	飛	歩	王	歩	飛	歩	銀
と	香	歩				歩	香	
桂								

▲なし

★私の手元でも検討しておりましたが、その際、受方の着手がすべて駒取りの順に絞って確認しておりました。粗検深くお詫び申し上げます。

★ Issue 110 (U372-379) の解答成績は以下の通りです(成績順・解答到着順)。解答ありがとうございました！

110U	U372 解1	U372 解2	U372 解3	U373	U374	U375	U376	U377	U378	U379	計 /50
吉田直嗣	5	5	5	5	5	5	5	0	5	5	45
及川弘典	5	5	5	5	5	5	5	5		5	45
須川卓二	5	5	5	5	5	5	5			5	40
則内誠一郎	5	5	5	5	5	5	5		5		40
高坂研	5	5	5		5				5	5	30
中嶋正和	5	5	5	5						5	25
松崎直樹									5		5

## 年間賞発表 2024 ヘルプメイト ジャッジ : Harry Fougiaxis

最初に、この審査を依頼いただいた藤原俊雅氏に感謝したい。合計 53 作のヘルプメイトの新作が、以下の号に発表された。

Issue 105 (I-III/2024):

H1463-1483 [21]

Issue 106 (IV-VI/2024):

H1484-H1498 [15]

Issue 107 (VII-IX/2024):

H1499-H1506 [8]

Issue 108 (X-XII/2024):

H1507-H1515 [9]

質量ともに満足のいく水準だった。以下、入賞に至らなかった作品のうち、いくつかについて所感を述べておく。

H1467 は WID 71743 に劣る。注目すべき WID 642519 や、きわめて優雅な WID 835654 (後者はわずかに使用駒 10 枚!) とも比較してほしい。H1472 はバランスを欠いている。H1473 (ヴァージョン) は、異なる P による 4 回の白 Q 成からなる拡張 bK star を表現し、model mate になるが、WID 23091、209047、250254 に比べると見劣りがする。H1480 は先行例に WID 108640 があり、WID 86969 と比較するのも有益だろう。H1483 の作者は、スライディングによる操作と黒の cyclic Platzwechsel を特徴とする、こうした locked cage の研究を近年進めている。単一の白 P による 2

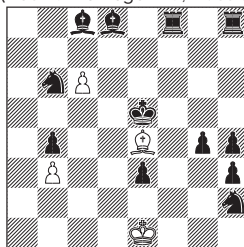
回の Excelsior の組み合わせは、すでに WID 933586 にある。本作では、当初拘束されていた黒駒を解放するために、2 手の導入的な白 R 捨てが加えられている。1 解における dual 的な P 成によるメイトは Codex によって許容されているが、私自身はそれでもなお気になる。H1490 はテーマ的に欠陥があり、1.Bc5 で始まる解には Indian が存在しない (Bxg7 は本質的な手ではない)。H1498 には驚異的な WID 487513 および 744406 といった先行例がある。H1506 は 実質的な先行例として WID があり、2 解を持つ WID 652458 に比べるとかなり劣る。

上記に言及した作品の図を知りたい方は、直接私にご連絡いただきたい。

以下に、私の提案する順位を示す。

### 1st Prize

Fadil Abdurahmanovic  
**H1484 C+** Boris Shorokhov  
(Bosnia Herzegovina, Russia)



H#2 zero position (4+12)

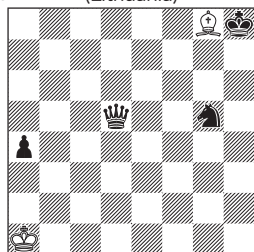
a) +wRa1 b) +wSb1  
c) +wBc1 d) +wQd1

- a) 1.Kd4 0-0-0+ 2.Kc3 Rd3#
- b) 1.Kf4 Sc3 2.Kg3 Se2#
- c) 1.Kd6 Bb2 2.Kc7 Be5#
- d) 1.Kf6 Qd6+ 2.Kg7 Qg6#

明らかに、Boris Shorokhov 作 SuperProblem Special HM 2024 (WID 918846) に触発されたもの。本作では、Hans Gruber が書いているように「Forsberg-homebase twinning」が Q サイドの駒に限定されつつ、拡張 bK star および long castling がおまけとして組み合わせられている。関心のある読者は、Anton Nasyrov (V. Vinokurov-70 MT 2023-24 1st Pr, WID 959613) や Vladislav Nefyodov (SuperProblem 2025, WID 957964) といった近年の類例も参照するといいたいだろう。

## 2nd Prize

H1497 Viktoras Paliulionis  
C+ (Lithuania)



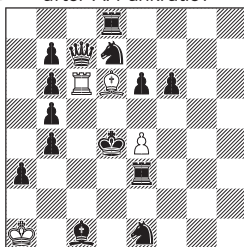
H#8 (2+4)

1.Qh1+ Kb2 2.a3+ Kc3 3.a2 Bb3  
4.a1=B+ Kc4 5.Kg8 Ba2 6.Qh8 Kd5  
7.Sh7 Ke6 8.Bg7 Ke7#

愛らしいミニチュア。Indian と、バッテリーの後方駒による不可欠なテンポ・ムーヴ、そして黒 Q のあざやかな手順が、手順の順序の正確さを保証するみごとな相互作用を生み出している。

## Special Prize

Jakub Marciniszyn(Poland)  
H1509 Bogusz Piliczewski  
C+ after A. Pankratiev



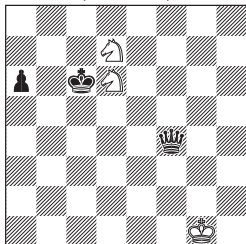
H#3 4sols (4+14)

1.Sf3 Bh2 2.Qg3 Rc4+ 3.Ke5 Bxg3#  
1.Sd3 Rxc1 2.Qc2 Be5+ 3.Kc5  
Rxc2#  
1.Qc8 Bb8 2.Qc7 Rc4+ 3.Ke5 Bxc7#  
1.Qb8 Rc8 2.Qc7 Be5+ 3.Kc5 Rxc7#

2 × 2 の HOTF で、3 枚の主要役者（黒 Q と白 RB）が協力し、第 1 ペアで Maslar / bicolor Bristol、第 2 ペアで Klasinc を表現する。おそらく着想源となった Aleksandr Pankratiev (Orbit 2007-08, N. Stolev-60 JT 5th Pr, WinChloe ID 297818) との比較は興味深いだろう。その作品の黒 P による単純な unguard が、こちらでは S による干渉に置き換えられ、黒 S の hideaway は、黒 Q による gate opening とスイッチバック (Klasinc) に置き換えられている。独創性の点では高く評価できないが、新しい要素がうまくマトリックスに溶け込み、統一感を高めているため、special prize に値すると感じた。

## Special Prize

**H1513** Viktoras Paliulionis  
C+ (Lithuania)



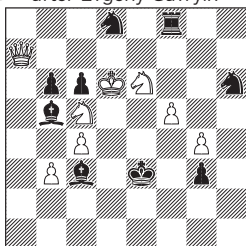
H#5 2sols (3+3)

- 1.Qxd6 Kf2 2.Kb5 Ke3 3.Qa3+ Kd4  
4.Ka4 Kc4 5.a5 Sb6#  
1.Qg4+ Kf2 2.Qxd7 Ke3 3.Kb6 Kd4  
4.Ka5 Kc5 5.Qa4 Sb7#

カメレオン・エコーの ideal model mate と、黒 Q の印象的な動きを伴った、驚くべき Zilahi のミニチュア。白 K の移動がダブるのがやや難点。

## 1st Hon. Mention

**H1469** Michal Dragoun  
C+ (Czech)  
after Evgeny Gavryliv



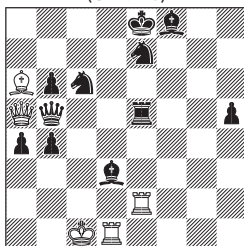
H#2 4sols (8+9)

- 1.Bxc4 Qa4 2.Be2 Qf4#  
1.Rxf5 Qh7 2.Rf2 Qd3#  
1.bxc5 Qa2 2.Ke4 Qe2#  
1.Sxe6 Qa1 2.Kd4 Qg1#

うまく構成された 2×2 の HOTF。  
第 1 ペアでは ambush の後の gate opening を目的とした P 消去と selfblock、第 2 ペアでは白 S を取ることで黒 K に退路を与える。白の着手は Q のみに統一されている。

## 2nd Hon. Mention

**H1485** Evgeny Gavryliv  
C+ (Ukraine)



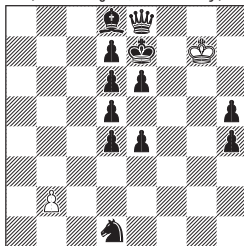
H#2 2sols (5+11)

- 1.Qxa5 Bxd3 2.Rb5 Bg6#  
1.Qxa6 Qxe5 2.Bb5 Qxh5#

黒の全着手が hideaway という難しいアイデアで評価に値する。黒 Q の gate opening と square clearance、黒 R/B の役割交換による Zilahi、そして model pinmate の巧みな融合。

## 3rd Hon. Mention

**H1505** Vidadi Zamanov  
C+ (Azerbaijan, Germany)  
Rolf Wiehagen



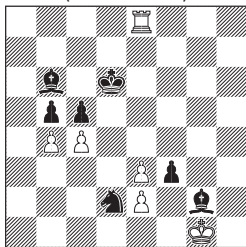
H#5 2sols (2+12)

1.Ba5 b4 2.Kd8 b5 3.Bd2 b6 4.Bg5  
b7 5.Be7 b8=Q#  
1.e3 b4 2.e2 b5 3.e1=Q b6 4.Qc3  
b7 5.Qc8 bxc8=S#

単独 P での白 Q/S 成の Excelsior。第 1 解では黒 B の長い旅による K との位置交換、第 2 解では、S を c8 に移動しようとするとしても白 P とぶつかるし、c7 でも捨てられないため、黒 P を Q に成って捨てる (Ceriani-Frolkin) が必要になる。楽しめる作品。

#### 4th Hon. Mention

H1492 Christopher J.A. Jones  
C+ (Great Britain)



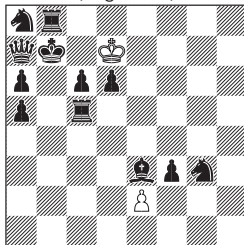
H#3.5 2sols (6+7)

1...cxb5 2.cxb4 Rd8+ 3.Kc5 e4  
4.Sc4 Rd5#  
1...exf3 2.bxc4 f4 3.Bc6 bxc5+  
4.Kd5 Re5#

2 組の P による相互 capture と、カメレオン・エコー風の model mate を含む、風変わりな手順。

#### 5th Hon. Mention

H1511 Jorge Lois  
C+ (Argentina)



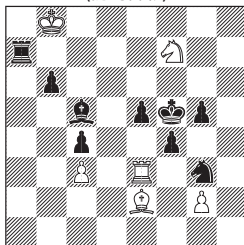
H#3.5 (2+12)  
b) Pa6→d3 c) Pc6→b5  
d) Rc5→c8

- a) 1...exf3 2.Se4 fxe4 3.Rd5 exd5  
4.Bb6 dxc6#
- b) 1...exd3 2.Rc4 dxc4 3.Ka6+ Kxc6  
4.Rb5 cxb5#
- c) 1...Kxd6 2.Bd4 e3 3.Kb6 exd4  
4.Rb7 dxc5#
- d) 1...Ke7 2.Bb6 e4 3.Kc7 e5 4.Qb7  
exd6#

白の単独 P による Albino を表現する驚きべきタスクだが、ツイン構成が望ましくなく、手順もいささか粗雑。

#### 6th Hon. Mention

H1468 Hiroaki Maeshima  
C+ (前嶋啓彰)



H#2 4sols (6+9)

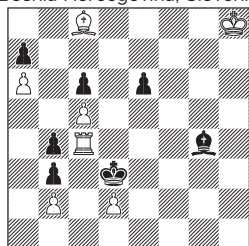


1.Sxe2 Rh3 2.Kg4 Sh6#  
 1.Bxe3 Bxc4 2.Ke4 Sd6#  
 1.Se4 Bh5 2.Sf6 Rxe5#  
 1.Be7 Sxe5 2.Bf6 Bg4#

興味深い 2 × 2 HOTF。第 1 ペアでは dual avoidance を伴う退路封鎖、第 2 ペアでは capture によって黒 K に退路を与える。ただし 1.Bxe3 が anticipatory selfblock になっているのが惜しい。

### Special Hon. Mention

Fadil Abdurahmanović  
**H1476 C+** Marko Klasinc  
 (Bosnia Hercegovina, Slovenia)



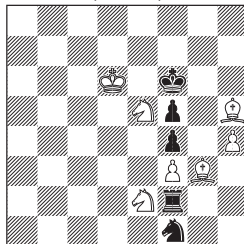
H#4 (7+7)

1.Bf3 Rh4 2.e5 Bg4 3.Kc4 d4 4.Bd5  
 Be2#

W1・W2 における Indian バッテリーの構築が、白 P が退路を guard しなければならないため、W3 で干渉される。通常のようなダブルチェックメイトを生まず、間接的にのみ用いられる点はたしかに逆説的だが、私にはさほど印象的ではなかった。

### 1st Commendation

**H1507** Abdelaziz Onkoud  
 C+ (France)



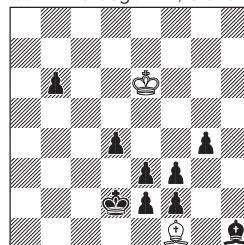
H#2 2sols (7+5)

1.Rxe2 Bxf4 2.Rxe5 Bxe5#  
 1.Sxg3 Sxf4 2.Sxh5 Sxh5#

capture の capture を伴う愛らしい拡張 Zilahi。黒は capture で mating square を空け、その過程で必然的にもう一方の白駒も取る。model mate。

### 2nd Commendation

Fadil Abdurahmanović  
**H1496 C+** Marko Klasinc  
 (Bosnia Hercegovina, Slovenia)



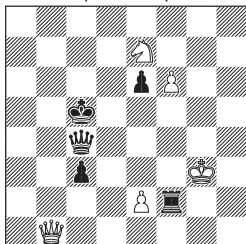
H#5 (2+9)

1.e1=R Ba6 2.d3 Kd5 3.Ke2 Kc4  
 4.d2 Bb5 5.d1=B Kc3#

ロイヤル・バッテリーを構築する Indian に、2 つの黒 P 成が融合されている。先を見据えた白の初手が好印象。

## Special Commendation

**H1465** Mihaiu Cioflâncă  
C+ (Romania)



H#2 5sols (5+5)

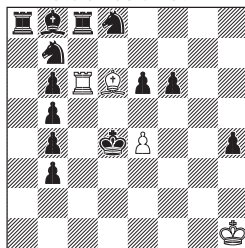
1.Rf5 Sc8 2.Rd5 Qb6#  
1.Qd5 Sc6 2.Kc4 Qb4#  
1.Qe4 Sf5 2.Kd5 Qb5#  
1.Kd6 Qe4 2.Qc7 Qd4#  
1.Kd4 Sg6 2.Qc5 Qd3#

軽い構図で、黒 K が 5 つの異なるマスでメイトされる。selfblock は単純だが、反復手なしで展開される白黒 Q のデュエルはよくできている。

Athens, 13.12.2025

Harry Fougiaxis

**cf** Aleksandr Pankratiev  
N.Stolev-60 JT 5th Pr



H#3 4 sols (4+13)

1.b2 Rc1 2.Rc2 Be5+ 3.Kc5 Rxc2#  
1.h3 Bh2 2.Bg3 Rc4+ 3.Ke5 Bxg3#  
1.Sf7 Rxc8 2.Bc7 Be5+ 3.Kc5 Rxc7#  
1.Sa5 Bxb8 2.Rc7 Rc4+ 3.Ke5 Bxc7#

[ 編集者：お手本となるような選評をありがとうございました。クレームは、いつものとおり、3 か月以内に編集者まで。それを過ぎると賞は確定します。]

## 編集後記

本号から、挿絵をピノー隆子さんに描いていただきます。どうぞお楽しみください。

解答やコメントは、Problem Paradise のホームページに載っているリンク、および本号のそれぞれのセクションに掲載されているハイパーリンクリンクの先にある、Google Form をお使いください。解答の締め切りは**2026年3月31日**です。結果発表は、2号後の114号に掲載されます。

解答、コメント、そして新作投稿の他に、本誌に対する感想などは編集長の若島宛にお送りください。宛先は gmail.com で wakashimatadashi まで。

## 解答成績

110号には、前号と同じく、11名の方々から解答をお寄せいただきました。このオンライン雑誌の存続は、読者からの解答や短評にかかっていますので、少なくとも20名は解答者がほしいと思っています。解けたのが1題でもかまいませんし、解けなかったがコメントだけでも大歓迎です。成績表をご覧ください。解答数の少ないセクションには特に、積極的なご参加をお待ちしています。

	D	E	H	S	F	R	U	Total
及川弘典	5		45	5	20		45	120
小畑 勉	5		12.5	5				22.5
高坂 研							30	30
塩見 亮			30					30
須川卓二	7.5		37.5	10			40	95
則内誠一郎	24		45	15	70	5	40	199
中嶋正和		0	22.5	5			25	52.5
松崎直樹							5	5
吉田直嗣							45	45
Yuri Arefiev				15				15
Dmitrij Baibikov						15		15